

第5章

資料

感染症発生動向調査事業定点一覧

内科定点(60)

(平成24年12月31日現在)

医療機関名	所在地	電話番号
坂本クリニック	鶴見区生麦5-6-2	505-0347
渡辺医院	鶴見区潮田町3-133-2	501-6457
橋本小児科	鶴見区下末吉1-24-15	581-5447
内科・小児科前広医院	鶴見区豊岡町10-7	571-2333
杉浦内科クリニック	神奈川区白楽100-5 白楽コミュニティプラザ3F	402-5650
藤江医院	神奈川区平川町26-2	491-8578
薩田内科クリニック	神奈川区菅田町2647 菅田町メディカルビル1F	477-4022
福澤クリニック	神奈川区片倉1-9-3 まるあびる1F	488-5123
鈴木内科クリニック	西区戸部町5-204	231-3355
スカイビル内科	西区高島2-19-12 スカイビル21F	461-1603
新妻クリニック	中区根岸町3-176-39	629-3585
川俣クリニック	中区麦田町4-107 ライフ山手2F	624-2960
室橋内科医院	中区本牧三之谷23-16	621-0139
鶴養医院	南区宮元町3-55	731-2308
よなみね内科クリニック	南区共進町1-34 森ビル1F	720-6008
あずま医院	南区清水ヶ丘1-21	231-7026
黒沢クリニック	港南区港南台7-42-30 サンライズ港南台2F201	833-9632
古家内科医院	港南区丸山台2-34-8	844-3080
宮川医院	港南区上大岡西1-12-17	842-0978
川村クリニック	保土ヶ谷区権太坂1-52-14	742-1010
篠崎医院	保土ヶ谷区上星川3-15-5	371-0038
浅野医院	保土ヶ谷区西谷町866	371-3018
黒田医院	旭区柏町47-11	364-9772
左近山クリニック	旭区左近山団地7-14-101	351-6541
若葉台クリニック	旭区若葉台1-3-116	921-3700
石田クリニック	旭区白根6-1-3	953-3308
遠藤内科	磯子区栗木1-28-27	773-7273
板垣医院	磯子区洋光台3-5-31	833-6141
富野医院	磯子区岡村6-5-35	752-3221
いとうファミリークリニック	金沢区釜利谷東2-1-1 ハザアル金沢文庫4F	783-5769
並木クリニック	金沢区並木2-9-4	788-0888
桑原内科クリニック	金沢区六浦5-21-3-106	791-5751
中野こどもクリニック	港北区富士塚1-1-1	434-6500
服部クリニック	港北区大倉山1-28-3	545-0001
横山クリニック	港北区大倉山4-5-1 大倉山ハイム1-101	531-1575
石井内科医院	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
椎橋医院	港北区大豆戸町200 菊名レジデンシアプラザ101号	401-9092
野村医院	緑区いぶき野8-15	981-2568
みなみ台小に科	緑区長津田みなみ台1-20-9	982-7041
田村内科クリニック	緑区十日市場町804-2 ホームストッププラザ十日市場西館101	989-6388
西川内科・胃腸科	青葉区あざみ野1-26-6	901-1241

医療機関名	所在地	電話番号
徳岡クリニック	青葉区荏田町477	911-6000
岡本診療所	青葉区青葉台1-29-5	981-9541
えなみクリニック	青葉区桂台2-27-21	962-9980
斉木クリニック	都筑区高山1-45 沖商事ビル102	941-0082
葛が谷つばさクリニック	都筑区葛が谷4-14 ヘルテゼゾン1F	945-2772
小林クリニック	都筑区すみれが丘38-31	592-0041
川上診療所	戸塚区川上町359	822-5074
内科小児科むかひら医院	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
半田医院	戸塚区平戸2-30-8	821-1235
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1 ケアハウスゆうあい4FB	822-3333
江口医院	栄区飯島町1413	891-0067
米田クリニック	栄区桂台北10-22	895-1300
大野内科医院	栄区本郷台3-1-6	896-0500
小林内科クリニック	泉区中田南2-2-2	801-2551
柏木医院	泉区和泉町2812	802-8253
かねむらクリニック	泉区中田北2-6-14 アイイチビルⅡ 1F-B	805-6685
まいえ内科	瀬谷区橋戸2-31-3 グランデュールプラザ2F	301-8561
三ツ境ライフクリニック渡部内科	瀬谷区三ツ境2-1 三ツ境ライフB館	360-3558
本郷クリニック	瀬谷区本郷3-20-21	304-2017

小児科定点(92)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
田中小児科医院	鶴見区東寺尾2-15-34	581-2880
さくら診療所	鶴見区矢向5-4-34	581-6070
小児科佐久間医院	鶴見区馬場4-31-15	581-2604
山崎医院	鶴見区東寺尾6-32-15	581-4003
渡部クリニック	鶴見区鶴見中央4-43-6	506-3657
大口東総合病院	神奈川区入江2-19-1	401-2411
くぼた小児科	神奈川区新子安1-2-4 オルトヨコハマビジネスセンター 1F	438-0291
まつうら小児科内科	神奈川区三ツ沢中町9-2	321-3171
鈴木小児科医院	神奈川区神大寺4-8-15	491-4510
大西医院	神奈川区反町4-27-16	324-2121
村瀬クリニック	神奈川区西神奈川1-12-7 東神奈川イーストアークビル1F	320-3306
富田こどもクリニック	西区藤棚町1-58-6	242-1543
西戸部こどもクリニック	西区西戸部町2-174	260-1495
青木小児科医院	西区境之谷73	231-4144
向山小児科医院	中区本牧三之谷22-1	623-7311
誠友医院	中区山下町113-4-3F	680-1283
寺道小児科医院	中区本牧町1-178	623-1021
小菅医院	中区石川町1-11-2 小菅医療ビル4F	651-6177
宇南山小児科医院	南区永田北3-36-5	714-1036
弘明クリニック	南区通町4-84 メルベィユ弘明寺2F	721-3611

医療機関名	所在地	電話番号
弓削医院	南区睦町1-7-5	731-2653
宮地小児科クリニック	南区六ツ川3-86-5	716-1011
大川小児科医院	南区万世町2-27	231-4443
小島小児科医院	港南区東永谷2-2-20	823-1121
竹田こどもクリニック	港南区上永谷2-11-1 いずみプラザ上永谷112	846-1088
原口小児科医院	港南区丸山台3-41-1	845-6622
ふくお小児科・アレルギー科	港南区港南台1-48-7	833-7737
八木小児科医院	港南区野庭町599-9	845-1177
星川小児クリニック	保土ケ谷区星川2-4-1 星川SFビル3F	336-2260
おざき小児科	保土ケ谷区仏向町121-2	348-4141
宮川内科小児科医院	保土ケ谷区岩間町1-4-1	331-2478
横山医院	保土ケ谷区峰岡町2-118	331-3296
北原医院	保土ケ谷区上菅田町59	381-1622
琴寄医院	旭区鶴ヶ峰1-13-2	373-6752
おじま小児科	旭区二俣川2-58 大洋ビル2F	361-0212
サンクリニック	旭区柏町97-8	366-6822
川島医院	旭区上白根町891 西ひかりが丘団地18-5-102	952-2039
小林小児科医院	旭区二俣川1-65	361-6116
育愛小児科医院	旭区中白根1-10-15	951-1152
矢崎小児科	磯子区磯子2-13-13	751-4378
さいとう小児科	磯子区岡村7-20-14	752-4882
住田こどもクリニック	磯子区西町6-39	753-7151
バニーこども診療所	磯子区洋光台6-19-43	830-0767
浅井こどもクリニック	金沢区釜利谷東2-14-11 高野ビル2F	785-1152
江原小児科医院	金沢区並木1-14-2	773-8533
大久保医院	金沢区六浦南2-42-18	788-6565
高橋こどもクリニック	金沢区富岡東5-18-1 長谷川メディカルプラザ富岡2階-G	775-3111
ふじわら小児科	金沢区富岡西1-48-12	773-6333
あべこどもクリニック	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
小机診療所	港北区小机町1451	471-9696
大川小児クリニック	港北区綱島東2-12-19 福島ビル1F	546-1071
カンガルーこどもクリニック	港北区北新横浜1-2-3 三橋ビル1F	309-0755
斉藤小児科心とからだのクリニック	港北区高田東1-25-3	531-3574
マリアこどもクリニック	港北区岸根町408-123	430-5415
日吉こどもクリニック	港北区日吉本町1-9-26 MKハイム1F	560-1850
シブヤチャイルドクリニック	港北区大倉山3-56-22 ナビウス大倉山106	542-6915
一色こどもクリニック	緑区白山1-1-3 ダイアパレス鴨居1F	933-0061
ちはら小児クリニック	緑区霧が丘3-2-9	923-1226
森の子キッズクリニック	緑区中山町750番地1	929-5501
さかたに小児科	緑区台村町309-1 土井ビル1F	930-3110
ぼっけキッズクリニック	緑区長津田みなみ台6-24-13	988-5330
太田こどもクリニック	青葉区あざみ野1-8-2 あざみ野メディカルプラザ3F	909-5335
渡辺医院	青葉区奈良町1670-44	962-8126

医療機関名	所在地	電話番号
武沼小児科医院	青葉区青葉台1-13-13	981-6122
あざがみ小児クリニック	青葉区美しが丘西3-65-6	909-0092
はやし小児科医院	青葉区松風台13-5 ライムライ松風台3	983-3254
有本小児科内科	青葉区美しが丘2-20-18 ドムス有本101	901-6870
あかねファミリークリニック	青葉区あかね台1-17-38	985-6607
水野クリニック	都筑区南山田町4258	593-4040
大山クリニック	都筑区茅ヶ崎南5-1-10 ノーブル茅ヶ崎	941-7171
山下小児科クリニック	都筑区北山田3-18-15	593-9770
都筑メディカルクリニック	都筑区荏田南1-12-16	943-8801
こどもの木クリニック	都筑区荏田南3-1-7	947-1888
マサカ小児科内科	戸塚区品濃町523-3 マサカビル1F	823-7866
清田小児科医院	戸塚区戸塚町1505-3	861-3015
小雀小児科医院	戸塚区小雀町1123-2	852-2354
小泉小児クリニック	戸塚区汲沢8-5-5	871-5566
ドリーム小児科	戸塚区俣野町1404-8	851-3661
東戸塚小児クリニック	戸塚区品濃町535-2 ニューシティ東戸塚タワーズシティ1st302	825-1799
吉田こどもクリニック	栄区野七里1-4-22	891-8888
若竹クリニック	栄区元大橋1-27-5	891-6900
内山小児科医院	栄区笠間2-31-13	892-4090
つちだこどもクリニック	栄区本郷台3-1-7	893-4176
あいかわこどもクリニック	泉区中田北2-6-14 アイイチビルⅡ1F	805-6605
渡辺こどもクリニック	泉区西が岡1-13-6	813-1618
緑園こどもクリニック	泉区緑園2-1-6-201	810-0555
はっとり小児科	泉区和泉町2860-1 立場AMANOビル2F-A	804-4153
瀬谷こどもクリニック	瀬谷区中央1-10 カサ・テ・パティオ2F	304-0045
池部小児科・アレルギー科	瀬谷区三ツ境21-10	360-6080
清水小児科	瀬谷区阿久和西3-1-13 あくわメディカルヴェルジ内	360-9191
ひかりこどもクリニック	瀬谷区相沢2-60-6	306-1066

眼科定点(19)

医療機関名	所在地	電話番号
ちぐさ眼科医院	鶴見区鶴見中央4-16-3 トミヤビル4F	502-0222
安田眼科医院	神奈川区反町1-6-12 リキヘリアンサス1F	313-2022
秋山眼科医院	中区尾上町3-28	641-9361
吉野町眼科	南区山王町4-26-3 ストーキビル秋山1階	260-6726
池袋眼科医院	港南区上大岡西1-18-5 ミオカM202	842-0380
小野江眼科	保土ヶ谷区帷子町1-12	335-2171
塚原眼科医院	旭区二俣川1-5 丸伊ビル2F	363-1102
洋光台眼科クリニック	磯子区洋光台3-13-5-110	835-0143
おいかわ眼科	金沢区能見台通8-1-2F	784-8558
つなしま眼科	港北区綱島西2-13-9 ウィラ綱島ビル1F	531-7132
ひよし眼科	港北区日吉本町1-4-18 平林ビル1F	562-5331
宮崎眼科	緑区長津田みなみ台4-7-1 アビタ長津田店1F	989-1805

医療機関名	所在地	電話番号
眼科中井医院	青葉区美しが丘2-14-7	905-5777
木崎眼科	青葉区青葉台2-9-10 第3フジモビル2F	985-3719
仲町台駅前眼科クリニック	都筑区仲町台1-7-12 ブリッジ二番館2階	942-4730
秋元眼科医院	戸塚区柏尾町1016	822-2520
永井眼科医院	栄区本郷台3-1-3-2F	893-5114
緑園都市眼科後藤クリニック	泉区緑園4-1-2 緑園都市ライフ2F	813-2277
高橋眼科クリニック	瀬谷区橋戸2-31-3 グランデュールプラザ2F	302-6337

性感染症定点(27)

医療機関名	所在地	電話番号
さなだ医院	鶴見区鶴見中央4-2-3	501-1117
熊切産婦人科	鶴見区豊岡町10-2	571-0211
原産科婦人科クリニック	神奈川区六角橋1-30-4	401-9511
コシ産婦人科医院	神奈川区白楽71-8	432-2525
横浜相鉄ビル皮膚・泌尿器科医院	西区北幸1-11-5 相鉄KSビル2F	311-3208
石橋泌尿器科皮フ科クリニック	中区長者町9-166-1 ソフィアヨコハマ1F	263-0820
公平泌尿器科医院	南区井土ヶ谷下町213 第2江洋ビル4F	713-6311
みながわ泌尿器科クリニック	港南区上大岡西3-9-2 ルス・デ・ルナ1階	848-2118
木下クリニック	港南区丸山台3-11-15	843-4310
杉本皮膚科	保土ヶ谷区川辺町2-2 ハイロッドハウス星川B-108	333-4422
浅井皮膚科クリニック	保土ヶ谷区帷子町1-14	334-3412
二俣川レディースクリニック	旭区本村町101-3 第7パレス桜咲	360-2875
希望が丘いずみクリニック	旭区中希望が丘236-19	391-0567
たけだ泌尿器科クリニック	磯子区杉田1-17-1 プラサSUGITA201	771-3055
小野医院	金沢区洲崎町5-41	701-8771
片桐レディースクリニック	金沢区谷津町153-3	780-5513
新横浜母と子の病院	港北区鳥山町650-1	472-2911
市川宝クリニック	港北区綱島西1-11-18	543-1103
あまかす医院	緑区白山1-1-3	931-2404
レディースクリニック服部	青葉区美しが丘5-3-2	902-0303
ワキタ産婦人科	青葉区藤が丘2-6-1	973-7081
聖ローザクリニック センター北	都筑区中川中央1-29-24 アビテノール3C	914-6355
山本内科・タワーズ皮膚科	戸塚区品濃町535-2 中央街区D棟306	825-5871
坂西医院泌尿器科	戸塚区矢部町645-10	862-5677
オカノ泌尿器科皮フ科医院	栄区笠間5-20-19 斉藤ビル2F	891-5860
泌尿器科あべクリニック	泉区中田西1-1-27 ネクストアイ3F	805-5808
まきずみ泌尿器科	瀬谷区瀬谷3-1-29 瀬谷メディカルプラザ2階	300-3711

基幹病院定点(4)

医療機関名	所在地	電話番号
済生会横浜市南部病院	港南区港南台3-2-10	832-1111
横浜市立市民病院	保土ヶ谷区岡沢町56	331-1961

医療機関名	所在地	電話番号
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院	旭区矢指町1197-1	366-1111
昭和大学藤が丘病院	青葉区藤が丘1-30	971-1151

病原体定点(17)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科 (小児科)	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
室橋内科医院 (内科)	中区本牧三之谷23-16	621-0139
とみい眼科 (眼科)	中区伊勢佐木町6-143-2 ITビル1F	261-1103
片山こどもクリニック (小児科)	港南区上大岡西2-3-6 ビルディングアルタ2F	844-7577
済生会横浜市南部病院 (基幹)	港南区港南台3-2-10	832-1111
横浜市立市民病院 (基幹)	保土ヶ谷区岡沢町56	331-1961
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院 (基幹)	旭区矢指町1197-1	366-1111
さいとう小児科 (小児科)	磯子区岡村7-20-14	752-4882
石井内科医院 (内科)	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
あべこどもクリニック (小児科)	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
有本小児科内科 (小児科)	青葉区美しが丘2-20-18 ドムス有本101	901-6870
はやし小児科医院 (小児科)	青葉区松風台13-5	983-3254
昭和大学藤が丘病院 (基幹)	青葉区藤が丘1-30	974-8143
内科小児科むかひら医院 (内科)	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
中条小児科医院 (小児科)	栄区上之町8-7	892-2583
瀬谷こどもクリニック (小児科)	瀬谷区中央1-10 カサ・デ・パティオ2F	304-0045
清水小児科 (小児科)	瀬谷区阿久和西3-1-13 あくわメディカルビル3F内	360-9191

疑似症定点(単独は56定点、内科定点60小児科定点92を加え208定点)

医療機関名	所在地	電話番号
クリニック寺尾	鶴見区馬場4-40-12	571-0792
鶴見クリニック	鶴見区豊岡町6-9 サンワイズビル3F	584-8233
くらた内科クリニック	鶴見区豊岡町2-3 フーガ3ビル505号室	576-3370
岡本こどもクリニック	鶴見区豊岡町7-7 鶴見駅西口医療ビル1階	570-0377
あしほ総合クリニック	鶴見区鶴見中央3-10	508-3611
井関医院	神奈川区栄町6-1 ヨコハマポートサイドロア式番館1F	451-6864
ななしまクリニック	神奈川区七島町161-5	401-9884
神之木クリニック	神奈川区西寺尾3-25-19-4F	435-0113
三ツ沢ハイタウンクリニック	西区宮ヶ谷25-2 三ツ沢ハイタウン1-110	312-0290
いちの内科クリニック	西区平沼1-2-12 甘糟平沼ビル2階	314-1125
中島医院	中区大和町2-34-5 山手駅前クリニックビル1F	621-8713
南永田診療所	南区永田みなみ台2-12-102	714-4880
上六ツ川内科クリニック	南区六ツ川1-873-3	306-8026
横浜ひまわりクリニック	南区西中町4-72	231-5550
岡内科クリニック	港南区上大岡西1-19-18 長瀬ビル3F	841-0133
栗原医院	港南区大久保2-7-19	842-9066

医療機関名	所在地	電話番号
諏訪クリニック	港南区港南台2-11-17	834-1651
豊福医院	港南区上永谷3-18-16	844-2255
新桜クリニック	保土ケ谷区新桜ヶ丘2-24-12-2F	352-4482
くぬぎ台診療所	保土ケ谷区川島町1404 くぬぎ台団地1-5-104	371-5278
小泉内科・胃腸科クリニック	保土ケ谷区星川1-4-5	331-3325
西山皮膚科	旭区中希望が丘100-4 希望が丘センタービル2F	360-7538
いわま内科クリニック	旭区今宿西町475	958-2377
白根診療所	旭区白根5-16-30	953-8881
つくしクリニック	旭区今宿2-63-14	360-0028
藤田小児科	磯子区杉田1-20-22 三葉ビル	771-2671
土屋内科医院	磯子区栗木1-20-5	773-0011
小谷医院	金沢区能見台3-7-7	773-5551
山口診療所	金沢区釜利谷東2-20-9 クリニックビル2F	785-3912
とみおか診療所	金沢区富岡東6-1-3	773-7213
富岡皮膚科クリニック	金沢区富岡西7-3-3 斉木ビル2階	773-2212
高田中央病院	港北区高田西2-6-5	592-5557
大倉山記念病院	港北区樽町1-1-23	531-2546
えびすクリニック	港北区綱島西2-7-2 第7吉田ビル2・3F	546-8611
日横クリニック	港北区日吉本町1-20-16 日吉教養センタービル2F	563-4115
まつみ医院	港北区日吉本町5-4-1	561-9300
佐々木消化器科内科	港北区綱島東2-12-19 福島クリニックビル3F	545-4588
鴨居小児科内科医院	緑区鴨居1-3-13-107号	935-3281
さいとうクリニック	緑区北八朔町1208-1	932-6555
松田クリニック	青葉区美しが丘西2-6-3	909-0130
さつきが丘こどもクリニック	青葉区さつきが丘4-10 アモンクール1F	971-2239
井上小児科医院	青葉区市ケ尾町1167-1 ラバーブル昌和1F	972-0250
川瀬医院	青葉区田奈町45-6	981-3111
あざみ野皮膚科	青葉区あざみ野2-9-11 サンサーラあざみ野ビル3F	905-1241
山本皮フ科クリニック	青葉区新石川3-15-16 TMIビル 1103	910-5033
山口医院	都筑区中川1-5-9	912-2188
小川メディカルクリニック	都筑区荏田南3-37-15 横浜青葉クリニックセンター2F	943-6566
荒井皮膚科クリニック	都筑区茅ヶ崎南3-1-60 サ・グレース1FA	945-1112
うえの小児科クリニック	戸塚区吉田町944-5 KAWARA1F	869-0311
ゆめはまクリニック	戸塚区舞岡町3406	828-2007
わかば医院	戸塚区深谷町55-71	851-3232
しばた医院	戸塚区戸塚町2810-8 土屋クリニックビル1F	865-6666
よしい内科クリニック	戸塚区汲沢1-10-46 踊場メディカルセンター2F	861-2511
山崎脳神経外科	栄区長沼町188-8	871-3996
杉本医院	栄区柏陽20-27	891-5417
みたに内科循環器科クリニック	泉区和泉町3839-1 フォレストいずみ中央	806-5067

横浜市感染症発生動向調査事業実施要綱

制 定 平成 12 年 11 月 27 日衛感第 340 号（局長決裁）

最近改正 平成 23 年 1 月 28 日健健安第 1720 号（局長決裁）

第 1 趣旨

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行に伴い、厚生労働省が定めた「感染症発生動向調査事業実施要綱」（以下「国要綱」という。）を基本に、横浜市において、感染症発生動向調査事業を実施するために必要な事項を定める。

第 2 対象感染症

本事業の対象とする感染症は次のとおりとする。

1 全数把握の対象

一類感染症

(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、(4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病及び(7)ラッサ熱

二類感染症

(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属 S A R S コロナウイルスであるものに限る）及び(12)鳥インフルエンザ（H5N1）

三類感染症

(13)コレラ、(14)細菌性赤痢、(15)腸管出血性大腸菌感染症、(16)腸チフス及び(17)パラチフス

四類感染症

(18)E型肝炎、(19)ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む）、(20)A型肝炎、(21)エキノコックス症、(22)黄熱、(23)オウム病、(24)オムスク出血熱、(25)回帰熱、(26)キャサヌル森林病、(27)Q熱、(28)狂犬病、(29)コクシジオイデス症、(30)サル痘、(31)腎症候性出血熱、(32)西部ウマ脳炎、(33)ダニ媒介脳炎、(34)炭疽、(35)チクングニア熱、(36)つつが虫病、(37)デング熱、(38)東部ウマ脳炎、(39)鳥インフルエンザ（H5N1を除く）、(40)ニパウイルス感染症、(41)日本紅斑熱、(42)日本脳炎、(43)ハンタウイルス肺症候群、(44)Bウイルス病、(45)鼻疽、(46)ブルセラ症、(47)ベネズエラウマ脳炎、(48)ヘンドラウイルス感染症、(49)発しんチフス、(50)ボツリヌス症、(51)マラリア、(52)野兎病、(53)ライム病、(54)リッサウイルス感染症、(55)リフトバレー熱、(56)類鼻疽、(57)レジオネラ症、(58)レプトスピラ症、(59)ロッキー山紅斑熱

五類感染症（全数）

(60)アメーバ赤痢、(61)ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）、(62)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）、(63)クリプトスポリジウム症、(64)クロイツフェルト・ヤコブ病、(65)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(66)後天性免疫不全症候群、(67)ジアルジア症、(68)髄膜炎菌性髄膜炎、(69)先天性風しん症候群、(70)梅毒、(71)破傷風、(72)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(73)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(74)風しん、(75)麻しん

新型インフルエンザ等感染症

(102)新型インフルエンザ、(103)再興型インフルエンザ

2 定点把握の対象

五類感染症（定点）

(76)RSウイルス感染症、(77)咽頭結膜熱、(78)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(79)感染性胃腸炎、(80)水痘、(81)手足口病、(82)伝染性紅斑、(83)突発性発しん、(84)百日咳、(85)ヘルパンギーナ、(86)流行性耳下腺炎、(87)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）、(88)急性出血性結膜炎、(89)流行性角結膜炎、(90)性器クラミジア感染症、(91)性器ヘルペスウイルス感染症、(92)尖圭コンジローマ、(93)淋菌感染症、(94)クラミジア肺炎（オウム病を除く）、(95)細菌性髄膜炎、(96)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(97)マイコプラズマ肺炎、(98)無菌性髄膜炎、(99)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(100)薬剤耐性アシネトバクター感染症、(101)薬剤耐性緑膿菌感染症

法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(104)摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)若しくは(105)発熱及び発しん又は水疱(ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。)

3 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象

二類感染症

(12)鳥インフルエンザ（H5N1）

第3 実施主体

実施主体は、健康福祉局健康安全課（以下「健康福祉局」という。）、衛生研究所及び各区福祉保健センター（以下「福祉保健センター」という。）とする。

第4 実施体制の整備

1 横浜市感染症情報センター

地方感染症情報センターとして横浜市感染症情報センター（以下「感染症情報センター」

という。)を、衛生研究所感染症・疫学情報課内に設置する。感染症情報センターは、横浜市内における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、健康福祉局及び福祉保健センターへ報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開する。

2 指定届出機関（定点）

健康福祉局は、定点把握対象の五類感染症について、患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集するため、患者定点、疑似症定点及び病原体定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。

3 横浜市感染症発生動向調査委員会

横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、疫学等の専門家、福祉保健センター及び衛生研究所の代表、医師会の代表等からなる横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「感染症委員会」という。）を置く。

感染症委員会の事務局は感染症情報センター及び健康福祉局とし、感染症委員会の運営については、横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱に定める。

第5 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び全数把握対象の五類感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

国要綱に定めるとおりとする。

イ 福祉保健センター

(ア) 当該届出を受けた福祉保健センターは、速やかに国が定める届出基準を参照し、届出の内容が合致するかどうか点検を行う。記載もれや不明な点は、届出を行った医師に確認し、必要に応じて補記・補正を行い、発生届を感染症情報センター及び健康福祉局に送付する。

また、当該患者（四類感染症については、第2の(51)を除く。また、全数把握対象の五類感染症については、第2の(60)、(62)、(64)、(65)、(66)、(68)、(69)、(71)、(72)、(73)、(74)又は(75)とする。）を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の衛生研究所への提供について、別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）」を添付して依頼する。

(イ) 福祉保健センターは、オ(ア)により衛生研究所から検体の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）（医療機関あて検査結果通知用）」により速やかに送付する。

ウ 健康福祉局

- (ア) 健康福祉局は、福祉保健センターからイ(ア)による送付があった場合は、直ちに、内容の点検等を行ったうえで、感染症情報センターと連絡もれがないか等、確認する。
- (イ) 健康福祉局は、届出を受けた感染症にかかる発生状況や感染症情報センターから提供のあった患者情報及び病原体情報等について、必要に応じ、区内の関係機関に情報提供し連携を図る。

エ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、福祉保健センターからイ(ア)による送付があった場合は、直ちに、届出内容を感染症発生動向調査システムに入力する。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報（検査情報を含む。）を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

オ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）」及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を別記様式「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）（福祉保健センターあて結果通知用）」により福祉保健センターに送付する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、中央感染症情報センターへ伝送する。
- (イ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。
- (ウ) 衛生研究所は、患者が一類感染症と診断されている場合、横浜市域を超えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

2 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、行政区ごとに医療機関の中から患者定点を選定する。

なお、患者定点の種類、その対象疾患及び定点数については、国要綱に定めるとおりとする。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、健康福祉局は、原則として、患者定点として選定された医療機関の中から病原体定点を選定する。

なお、病原体定点の種類、その対象疾患及び定点数については、国要綱に定めるとおりとする。

(3) 調査単位等

国要綱に定めるとおりとする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、国が定める報告基準により、患者発生状況の把握を行う。

(イ) 2の(ア)により選定された定点把握対象の指定医療機関においては、国が定める基準及び様式に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。

(ウ) (イ)の患者発生状況等の情報については、指定された方法により福祉保健センター又は感染症情報センターへ報告する。

イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、国が定める病原体検査指針により、微生物学的検査のために検体を採取する。

(イ) 病原体定点で採取された検体は、別記様式「病原体定点からの検査依頼書」を添えて、速やかに衛生研究所へ送付する。

ウ 福祉保健センター

福祉保健センターは、ア(ウ)により定点把握対象の指定医療機関から得られた患者情報を、調査単位が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症情報センターへ送付する。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報についても、感染症情報センター及び健康福祉局へ報告する。

エ 健康福祉局

健康福祉局は、感染症情報センターから情報提供のあった患者情報及び病原体情報について、必要に応じ、区内の関係機関に情報提供し連携を図る。

オ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、患者定点又は福祉保健センターから患者情報の報告があり次第、感染症発生動向調査システムに入力する。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

カ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、イ(イ)により別記様式「病原体定点からの検査依頼書」及び検体が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を病原体情報として、別記様式「病原体定点からの検査依頼書（医療機関あて検査結果通知用）」により病原体定点に通知するとともに、感染症発生動向調査に必要な病原体情報をコンピュータ・オンラインシステムにより、中央感染症情報センターへ伝送する。
- (イ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。
- (ウ) 衛生研究所は、横浜市域を超えた集団発生があつた場合等の緊急の場合にあつては、検体を国立感染症研究所に送付する。

3 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする感染症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

(2) 疑似症定点の選定

疑似症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、行政区ごとに医療機関の中から疑似症定点を選定する。

(3) 実施方法

ア 疑似症定点

- (ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時において、国が定める報告基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行う。
- (イ) (2)により選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、国が定める基準に従い、直ちに疑似症発生状況等を記載する。なお、当該疑似症の届出については、原則として症候群サーベイランスシステムへの入力により実施する。
- (ウ) (イ)の届出に当たっては法施行規則第7条に従い行う。

イ 健康福祉局

健康福祉局は、疑似症の発生状況等を把握し、市町村、指定医療機関その他の関係医

療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

ウ 感染症情報センター

(ア) 感染症情報センターは、疑似症定点において症候群サーベイランスシステムへの入力を実施することができない場合、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、症候群サーベイランスシステムに入力する。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報についても、健康福祉局へ報告する。

(イ) 感染症情報センターは、横浜市内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

4 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の実施方法

(1) 福祉保健センター

鳥インフルエンザ（H5N1）に係る積極的疫学調査を実施した福祉保健センターは、国の定める基準に従い、関係書類を健康福祉局及び感染症情報センターに送付する。医療機関から検体が提出される場合には、感染症情報センターに連絡した上で、医療機関から検体を受け取り、衛生研究所へ搬入する。

(2) 感染症情報センター

ア 感染症情報センターは、(1)により得られた情報を、直ちに疑い症例調査支援システムに入力する。

イ 医療機関より検体が提出される場合には、疑い症例調査支援システムが発行する検査依頼票を打ち出し、衛生研究所に送付する。

(3) 衛生研究所

ア 衛生研究所は、検体が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その内容を直ちに感染症情報センターに送付する。

イ 鳥インフルエンザ（H5N1）に係る積極的疫学調査の結果を厚生労働省に報告する場合にあつては、法施行規則第9条第2項に従い、検体を国立感染症研究所に送付する。検体を送付する場合においては、(2)イにより感染症情報センターから送付された検査依頼票を添付する。

第6 その他

本要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて健康福祉局長が定めることとする。

なお、感染症発生動向調査事業については、本要綱に基づき実施することとし、結核発生動向調査事業については、従来の「横浜市結核・感染症発生動向調査事業実施要綱」に基づ

き実施することとする。

附 則

(施行期日)

1 この実施要綱は、平成 15 年 11 月 5 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 18 年 6 月 12 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 20 年 1 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 20 年 5 月 12 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 23 年 2 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

別記様式一覧表

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症
検査票（病原体）（4枚複写式）

（医療機関控）

（福祉保健センター控）

（福祉保健センターあて検査結果通知用）

（医療機関あて検査結果通知用）

病原体定点からの検査依頼書（3枚複写式）

（医療機関控）

（衛生研究所控）

（医療機関あて検査結果通知用）

横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱

最近改正 平成 23 年 5 月 24 日 健健安第 304 号（局長決裁）

（設置）

第 1 条 横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的、効率的な運用を図るため、横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第 2 条 委員会は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号。以下「法」という。）第 16 条の規定に基づき、法第 12 条から第 15 条までの規定により収集した感染症に関する情報について分析を行い、感染症の予防のための情報を積極的に公表する。

（組織）

第 3 条 委員会は、委員 6 人以上 10 人以下をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから健康福祉局長が任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 横浜市医師会を代表する者
- (3) 福祉保健センター及び衛生研究所の代表

（委員の任期）

第 4 条 委員の任期は、3 年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

（委員長及び副委員長）

第 5 条 委員会に、委員長及び副委員長 1 人を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（招集）

第 6 条 委員会の会議は、委員長が毎月 1 回、その他必要に応じて招集する。

（議事の運営）

第 7 条 委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。ただし、緊急その他やむを得ない理由があるときはこの限りでない。

(関係者の出席等)

第8条 委員長は、委員会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求めてその意見若しくは説明を聴き、又は関係者から必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、健康福祉局において処理する。

(その他)

第10条 本要綱に定める他、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成14年1月1日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱の施行後最初の委員会の会議は、衛生局長が招集する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年5月24日から施行する。

今月のトピックス

- インフルエンザ注意報が発令されました。
- 感染性胃腸炎が神奈川区で警報レベルです。
- マイコプラズマ肺炎の報告が昨年と比べて増加が続いています。

全数把握の対象

1 コレラ: O1 エルトール小川型 1 件の報告がありました。フィリピンでの経口感染が推定されています。現在までにコレラの世界的流行は 7 回にわたって記録されており、第 1 次流行からの第 6 次流行までは、すべてインドのベンガル地方から世界中に広がり、原因菌は O1 血清型の古典コレラ菌でした。しかし、1961 年にインドネシアのセレベス島(現スラワシ島)に端を発した第 7 次流行は、O1 血清型のエルトールコレラ菌であり、この流行が現在も世界中に広がっていて、終息する気配がありません。WHO に報告されている世界の患者総数は、ここ数年 20 ~ 30 万人ですが、実数はこれを上回っていると推察されます。

国立感染症研究所ホームページ: http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k00-g15/k00_01/k00_01.html

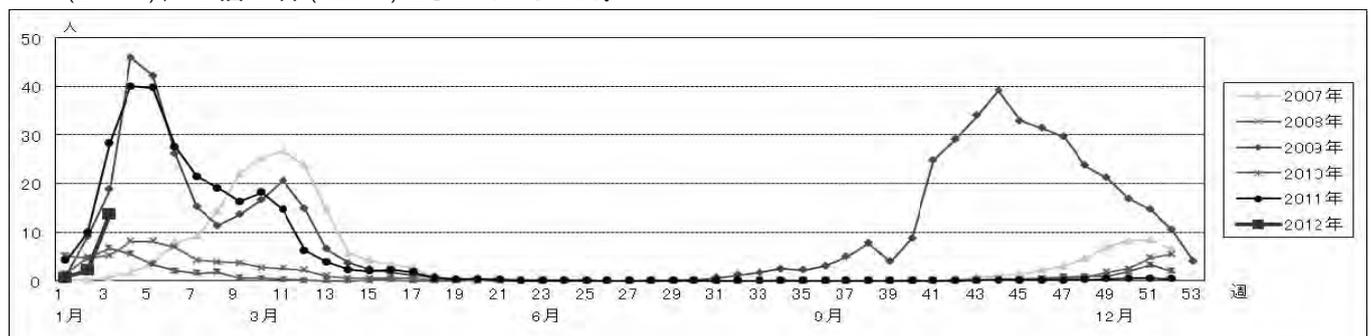
- 2 細菌性赤痢: *Shigella sonnei* 1 件の報告がありました。感染経路、感染地域等不明です。
- 3 パラチフス: 1 件の報告がありました。パキスタンでの感染が推定されています。
- 4 レジオネラ症: 1 件の肺炎型の報告がありました。感染経路等調査中です。
- 5 アメーバ赤痢: 1 件の腸管アメーバ症の報告がありました。国内の感染が推定されていますが、感染経路は不明です。
- 6 破傷風: 1 件の報告がありました。国内での創傷感染が推定されています。破傷風は、その原因や罹患する患者の違いから、創傷性破傷風と新生児破傷風に分類されます。創傷性破傷風は成人の破傷風のほとんどを占め、刺創や挫傷などの他、極めて些細な外傷からの感染が多く報告されています。破傷風菌は広く土壌中に常在しており、農作業等に従事する人は予防接種が重要です。さらに歯槽膿漏患者の病変部位からの感染や、糖尿病患者のインスリンの自己注射や採血による感染も報告されています。また、米国や英国では注射による薬物依存者での報告もあり、芽胞に汚染された薬物、その溶解液や注射器からの感染の可能性が指摘されています。

国立感染症研究所ホームページ: <http://idsc.nih.go.jp/iasr/30/349/tpc349-j.html>

定点把握の対象

1 インフルエンザ: 第 3 週に市全体で定点あたり 13.71 となり、注意報発令基準(定点あたり 10.00)を超え、注意報が発令されました。第 3 週での注意報発令は昨シーズンと同時期です。迅速キットの結果は 9 割程が A 型で、1 割程が B 型です。横浜市衛生研究所におけるウイルス検出結果では、AH3 型 87%、B 型 13% であり、AH1N1pdm09 は検出されておらず、全国とほぼ同じ傾向です。市内で検出された AH3 型ウイルス 14 株のワクチン株に対する抗原性を調べたところ、HI 価が、8 倍 8 株(57.1%)、16 倍 6 株(42.9%)となっていました。

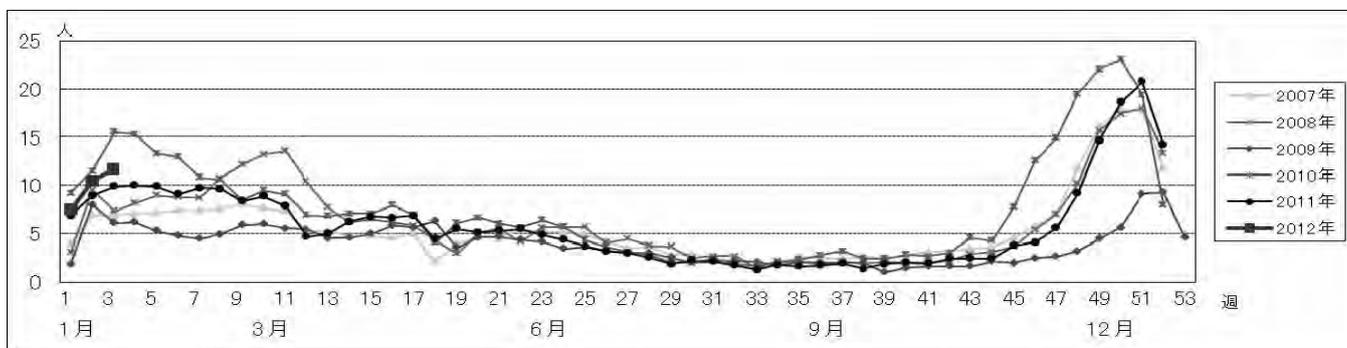
平成 23 年 週 - 月日対照表	
第 51 週	12 月 19 ~ 25 日
第 52 週	12 月 26 ~ 1 月 1 日
第 1 週	1 月 2 ~ 8 日
第 2 週	1 月 9 ~ 15 日
第 3 週	1 月 16 ~ 22 日



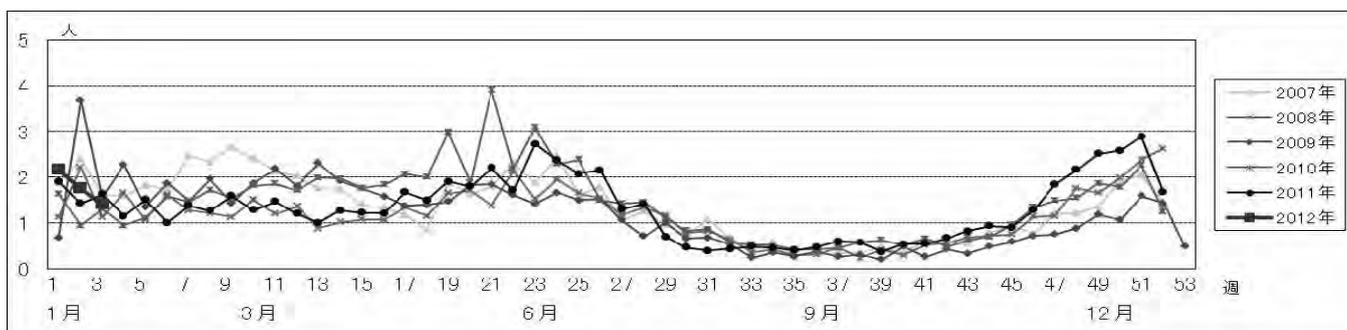
- 2 **感染性胃腸炎**:市全体で昨年末に流行がみられましたが第51週20.76をピークに減少に転じました。しかし、第2週から再び増加し、第3週には11.69となり、区別では神奈川区が20.67で警報レベルです。引き続き注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

横浜市衛生研究所:次亜塩素酸の詳しい使用方法 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>

横浜市衛生研究所:感染性胃腸炎臨時情報 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/gas/gas201150.pdf>



- 3 **水痘**:市内全体では、昨年51週2.88と、例年より多い報告が続いていましたが、第2週1.74、第3週1.40と減少しました。区別では瀬谷区4.50で注意報レベルとなっています。



- 4 **性感染症**:12月は、性器クラミジア感染症は男性が13件、女性が18件でした。性器ヘルペス感染症は男性が3件、女性が5件です。尖圭コンジローマは男性7件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が15件、女性が0件でした。
- 5 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎が全国的に増加しており、注意が必要です。全国では、例年定点あたり0.2~0.6程度で推移していましたが、第1週1.10、第2週0.92、第3週0.98と増加しています。横浜市でも増加がみられ、第51週では定点あたり2.00、52週1.00、1週1.50、2週1.50、3週2.50と、前シーズンの51週0.00、52週0.00、1週0.00、2週0.00、3週0.00を上回っています。細菌性髄膜炎(H. influenzae)が第3週に1件ありました(乳児、予防接種歴2回。治療により快方に向かっているそうです)。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 **基幹定点月報**:12月は、メチシリン耐性ブドウ球菌感染症10件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

- インフルエンザ警報が発令され、流行が継続中です。
- 感染性胃腸炎が神奈川区で警報レベルです。
- マイコプラズマ肺炎の報告が昨年と比べて増加が続いています。

全数把握の対象

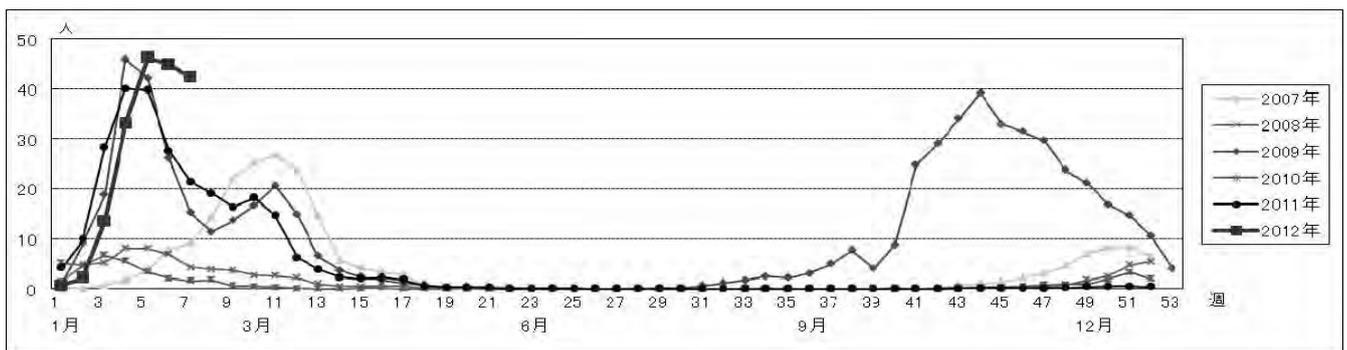
- 1 レジオネラ症:1 件の肺炎型の報告がありました。共同浴場等の利用はありませんでした。さらに感染経路等調査中です。
- 2 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):1 件の無症候期の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 3 破傷風:1 件の報告がありました。国内での創傷感染が推定されています。
- 4 風しん:1 件の小児例の報告がありました。予防接種歴 1 回あり、風しん IgM 上昇を認めています。

定点把握の対象

- 1 インフルエンザ:第 4 週に市全体で定点あたり 33.02 となり、警報発令基準(定点あたり 30.00)を超えました。第 4 週での警報発令は昨シーズンと同時期です。その後第 5 週から 3 週間連続で 40.00 を上回る流行が継続しており、第 7 週では 42.28 となっています。迅速キットの結果は徐々に B 型が増加し、第 7 週では 3 割程が B 型です。横浜市衛生研究所における、定点医療機関からのウイルス検出結果では、AH3 型 67 件(72.8%)、B 型(山形系統)9 件(9.8%)B 型(ビクトリア系統)8 件(8.7%)、B 型(解析中)8 件(8.7%)でした。また、市内で分離された AH3 型ウイルス 68 株のワクチン株に対する抗原性を調べたところ、HI 試験で、4 倍が 5 株(7.4%)、8 倍が 40 株(58.8%)、16 倍が 23 株(33.8%)でした。

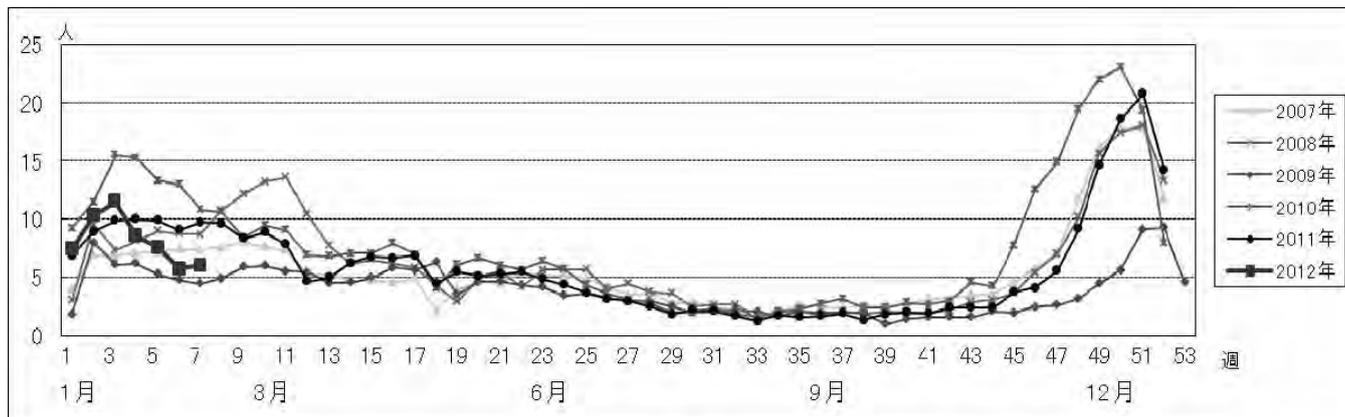
週	日
第 4 週	1 月 23 ~ 29 日
第 5 週	1 月 30 ~ 2 月 5 日
第 6 週	2 月 6 ~ 12 日
第 7 週	2 月 13 ~ 19 日

横浜市衛生研究所:インフルエンザ流行情報 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/influenza-rinji-index2011.html>

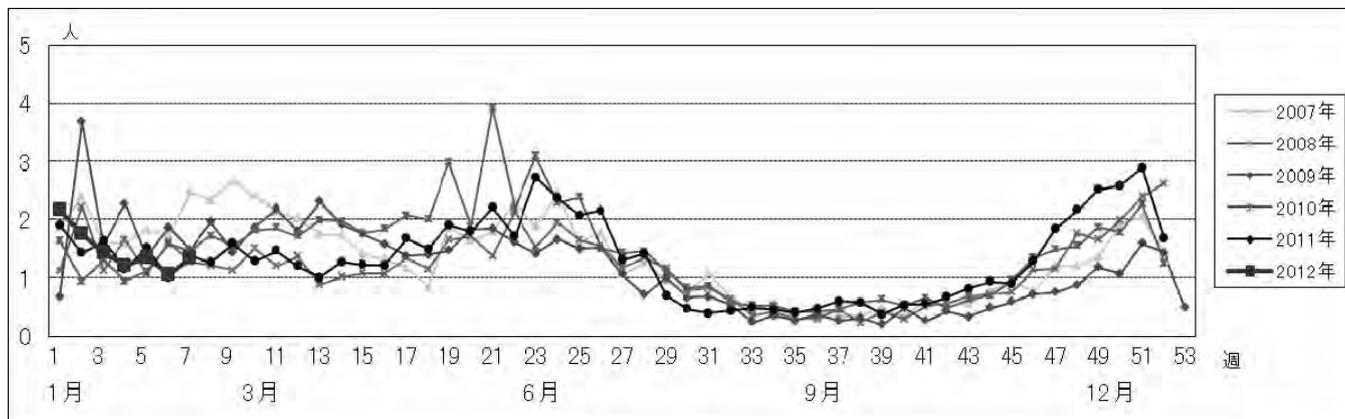


- 2 **感染性胃腸炎**:市全体で昨年末に流行がみられましたが、第7週では6.01と落ち着いています。しかし、神奈川区では徐々に低下傾向にあるものの、第7週で12.83と、終息基準値の12.00をわずかに上回っており、警報レベルが継続しています。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

横浜市衛生研究所:次亜塩素酸の詳しい使用方法 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>



- 3 **水痘**:市内全体では、第7週1.34と落ち着いています。瀬谷区5.75で注意報レベルとなっています。



- 4 **性感染症**:1月は、性器クラミジア感染症は男性が16件、女性が15件でした。性器ヘルペス感染症は男性が7件、女性が1件です。尖圭コンジローマは男性1件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が13件、女性が3件でした。
- 5 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎が全国的に増加しており、注意が必要です。全国では、例年定点あたり0.2~0.6程度で推移していましたが、第1週1.10、第2週0.92、第3週0.98、第4週0.78と増加しています。横浜市でも増加がみられ、第1週では定点あたり2.00、2週1.00、3週2.33、4週1.33と、前シーズンの第1週0.00、第2週0.00、第3週0.00、第4週0.33を上回っています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 **基幹定点月報**:1月は、メチシリン耐性ブドウ球菌感染症9件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

- インフルエンザ警報が発令されていますが、報告数は徐々に減少しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が昨年と比べて多い状況が続いています。

全数把握の対象

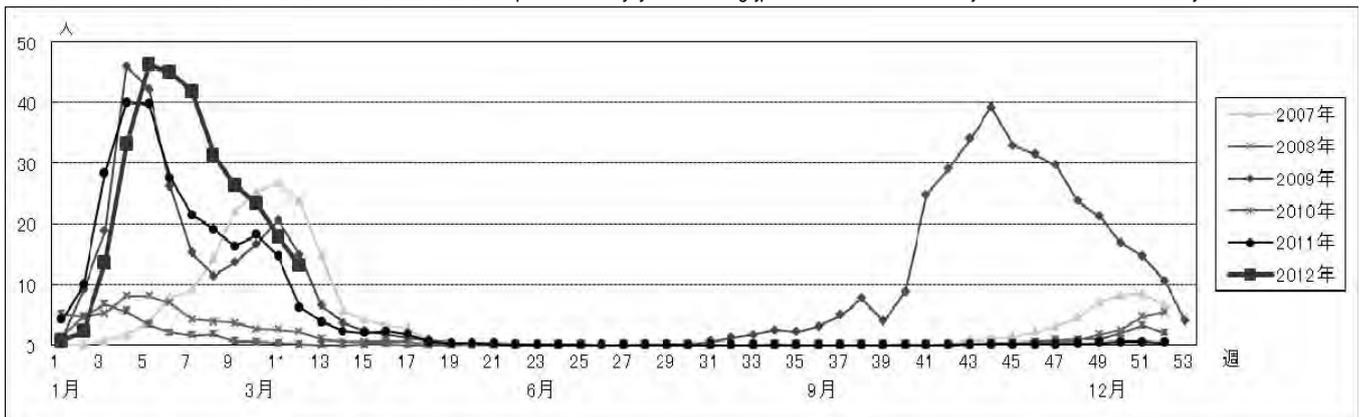
- 1 腸管出血性大腸菌感染症:3 件(O157 VT1VT2 が 2 件、O111 VT1VT2 が 1 件)の報告がありました。いずれも飲食店での喫食状況を確認しましたが、同行者等に有症状者等を認めませんでした。
 啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>
- 2 A 型肝炎:10 代の報告が 1 件ありました。国内での感染が推定されていますが、周囲に感染者はおらず明らかな原因は不明です。
- 3 マラリア:2 件の熱帯熱マラリアの報告がありました。それぞれ、アフリカでの感染が推定されています。マラリアは、熱帯熱、三日熱、卵形、四日熱の 4 種類に分かれますが、中でも熱帯熱マラリアは短期間で重症化する危険があります。診断は血液塗抹標本をギムザ染色し、光学顕微鏡で検査する方法が一般的です。
- 4 アメーバ赤痢:腸管アメーバ症 1 件の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 5 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):1 件の無症候期の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 6 バンコマイシン耐性腸球菌感染症:1 件の報告がありました。遺伝子型は現在検査中です。
- 7 風しん:2 件の報告がありました。1 件は 10 代で予防接種歴不明。発しん、発熱、リンパ節腫脹の臨床症状から診断されました。もう 1 件は 30 代で予防接種歴なし。職場の同僚が風しんであり、発しん、発熱、リンパ節腫脹を認めたことから診断されました。

定点把握の対象

- 1 インフルエンザ:第 5 週に市全体で定点あたり 46.26 と流行のピークとなり、以後徐々に減少し、第 12 週では 13.06 となっています。迅速キットの結果は徐々に B 型が増加し、第 12 週では 86.6%が B 型です。横浜市衛生研究所における、定点医療機関からのウイルス検出結果では、AH3 型 90 件(64.3%)、B 型(ビクトリア系統)31 件(22.1%)、B 型(山形系統)18 件(12.9%)、B 型(解析中)1 件(0.7%)でした(第 12 週現在)。市内で検出されたウイルスの内、AH3 型 89 株についてワクチン株(A/Victoria/210/2009)との抗原性解析を行ったところ、HI 試験で、4 倍が 7 株(7.9%)、8 倍が 59 株(66.3%)、16 倍が 23 株(25.8%)でした。また、市内で検出された B 型(Victoria 系統)34 株についてもワクチン株(B/Brisbane/60/2008)との抗原性解析を行ったところ、同等が 1 株(2.9%)、2 倍が 11 株(32.4%)、4 倍が 22 株(64.7%)でした(第 12 週現在)。

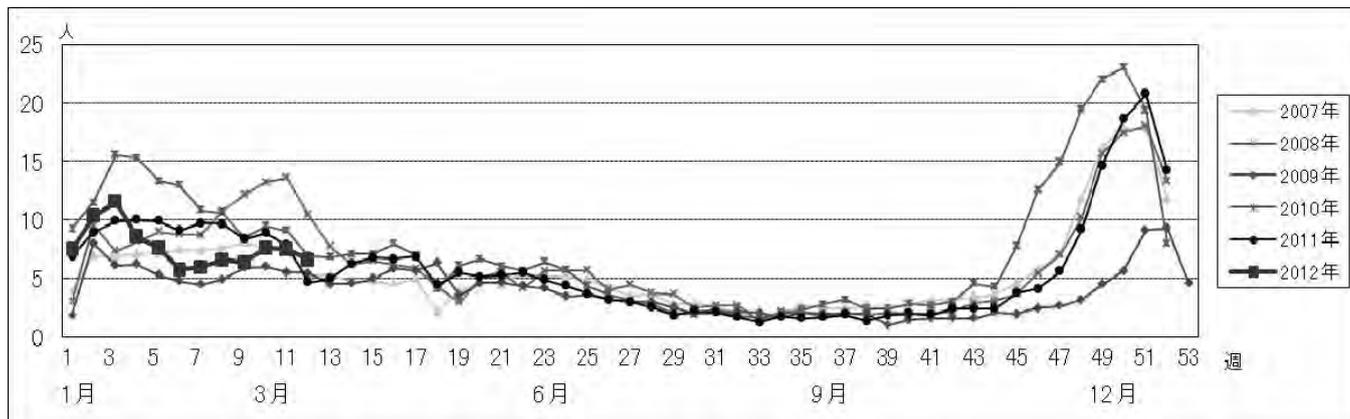
週	月日
第 8 週	2 月 20 ~ 26 日
第 9 週	2 月 27 ~ 3 月 4 日
第 10 週	3 月 5 ~ 11 日
第 11 週	3 月 12 ~ 18 日
第 12 週	3 月 19 ~ 25 日

横浜市衛生研究所:インフルエンザ流行情報 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/influenza-rinji-index2011.html>

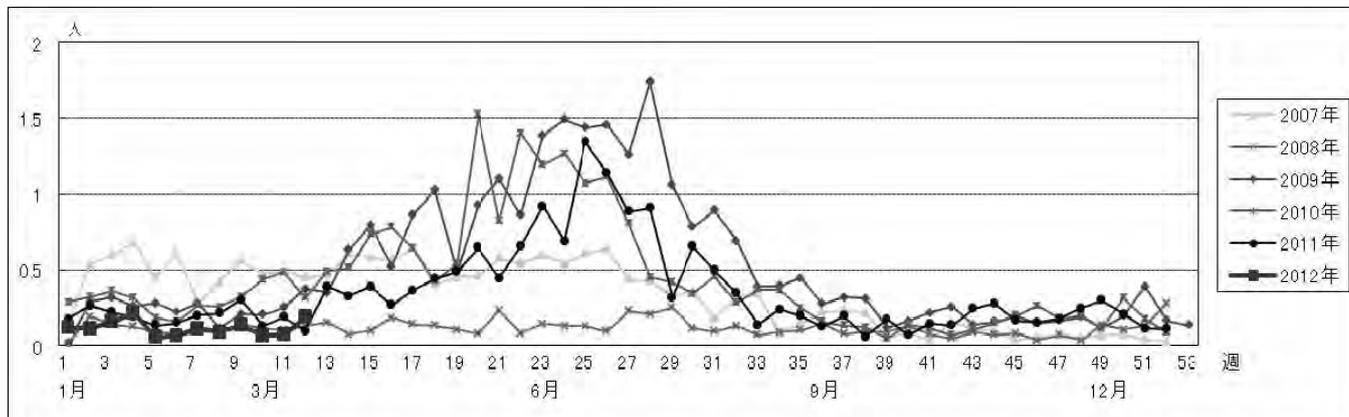


- 2 **感染性胃腸炎**:市全体では第12週では6.56と落ち着いていますが、神奈川区では第12週15.83と、終息基準値の12.00をわずかに上回っており、警報レベルが継続しています。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

横浜市衛生研究所:次亜塩素酸の詳しい使用方法 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>



- 3 **伝染性紅斑**:市内全体では、第12週0.19と落ち着いていますが、中区2.00で警報レベルとなっています。



- 4 **性感染症**:2月は、性器クラミジア感染症は男性が11件、女性が5件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が1件です。尖圭コンジローマは男性1件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が6件、女性が1件でした。
- 5 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎が全国的に増加しており、注意が必要です。全国では、例年定点あたり0.2~0.6程度で推移していましたが、第9週0.77、第10週0.79、第11週0.79、第12週0.74と増加しています。横浜市でも増加がみられ、第9週では定点あたり0.33、10週0.00、11週0.00、12週0.50と、前シーズンの第9週0.00、第10週0.00、第11週0.00、第12週0.00を上回っています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 **基幹定点月報**:2月は、メチシリン耐性ブドウ球菌感染症8件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

《今月のトピックス》

- 感染性胃腸炎が緑区と神奈川区で警報レベルです。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が昨年と比べて多い状況が続いています。

全数把握の対象

1 腸チフス:1 件の報告がありました。インドでの感染が推定されています。

腸チフス・パラチフスは現在でも、日本を除く東アジア、東南アジア、インド亜大陸、中東、東欧、中南米、アフリカなどに蔓延し、流行を繰り返しています。わが国でも昭和初期から終戦直後までは腸チフスが年間約 4 万人、パラチフスが約 5,000 人の発生がみられていました。そして、1970 年代までには環境衛生状態の改善によって、年間約 300 例の発生まで減少しました。その後さらに減少し、1990 年代に入ってから腸チフス・パラチフスを併せて年間約 100 例程度で推移しています。そのほとんどは海外からの輸入事例で、海外旅行が日常化したことにより増加傾向にあります。腸チフス、パラチフスの治療には、現在ではニューキノロン系抗菌薬が第一選択薬として使われていますが、インド亜大陸の渡航者から薬剤耐性菌が多く分離されており、注意が必要です。

◆腸チフス・パラチフスとは(国立感染症研究所 H.P.)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ta/typhi/392-encyclopedia/440-typhi-intro.html>

2 腸管出血性大腸菌感染症:2 件(O157 VT2、O165 VT2)の報告がありました。いずれも飲食店での喫食状況を確認しましたが、同行者等に有症状者等を認めませんでした。

◆啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

3 A 型肝炎:2 件の報告がありました。周囲の有症状者はおらず、明らかな感染原因は不明です。

4 E 型肝炎:50 代の報告が 1 件ありました。中国湖北省での経口感染が推定されています。全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝機能異常があり、血液からの PCR 法による遺伝子検出で診断されました。生肉や獣肉などの喫食歴はありませんでした。

E 型肝炎は経口感染する疾患で、患者の便の中に出てきた E 型肝炎ウイルスが人の口の中に入って主に感染します。飲み水が便によって汚染されているような場合に集団感染が起こりやすくなります。中国・インド・ネパール・パキスタンなどのアジアの国々、メキシコ、中東・アフリカの国々では E 型肝炎が多く発生しており、旅行の際は飲み水に注意が必要です。また、国内での感染では、推定感染地域が国内とされている 56 例(1999 年 4 月～2004 年 11 月)を調査したところ、届出に飲食物の記載があった 22 例の内訳は、イノシシ 8 例(肉 4、肝臓 3、心臓 1)、ブタ 9 例(生肉 2、肝臓 5、腸 2、横隔膜 1、胃 1)、シカ 6 例(生肉 4、その他 2)、カキ・タチ(タラの精巣)1 例となっており(一部重複例あり)、生肉や内臓の喫食が関連していました。ブタ、シカ、イノシシなどの肉・内臓を食する場合には十分加熱することが大切です。E 型肝炎となった場合、致死率は、一般の人々では、0.5-4.0%ですが、妊婦の場合では、17-33%と高く、注意が必要です。

◆E 型肝炎とは(国立感染症研究所 H.P.)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/a/hepatitis/hepatitis-e.html>

◆E 型肝炎について(横浜市衛生研究所 H.P.)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/hev1.html>

5 マラリア:1 件の三日熱マラリアの報告がありました。インドでの感染が推定されています。

6 アメーバ赤痢:腸管アメーバ症 2 件の報告がありました。1 件は国内での異性間性的接触による感染、もう 1 件は国内での経口感染(具体的な感染源不明)が推定されています。

7 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):1 件の無症候期の報告がありました。国内での同性間性的接触及び静注薬物使用による感染が推定されています。

8 ジアルジア症:1 件の報告がありました。インドでの感染が推定されています。

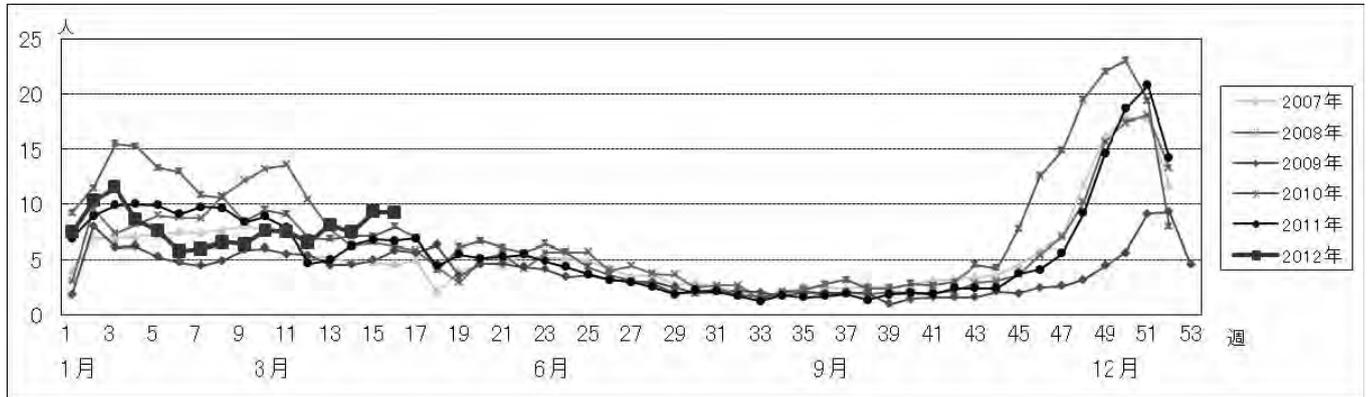
定点把握の対象

- 1 **感染性胃腸炎**:市全体では第16週では9.20ですが、緑区では26.20と警報レベルです。また、神奈川区では18.00と終息基準値の12.00を上回っており、警報レベルが継続しています。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

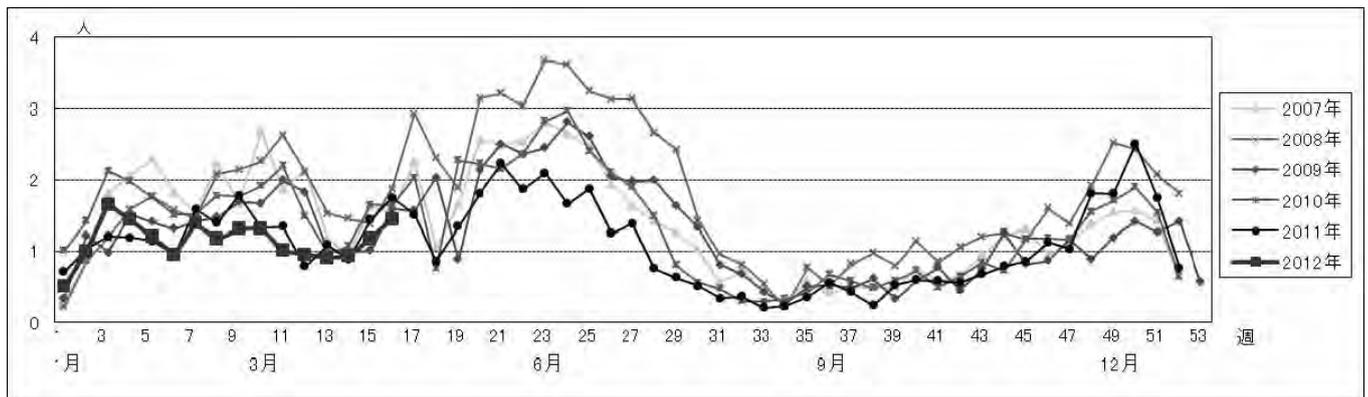
◆横浜市衛生研究所:次亜塩素酸の詳しい使用方法

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>

平成24年 週一月日対照表	
第12週	3月19～25日
第13週	3月26～4月1日
第14週	4月2～8日
第15週	4月9～15日
第16週	4月16～22日



- 2 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:市内全体では、第16週1.45と落ち着いていますが、第14週の0.93から僅かに上昇しています。例年5月～8月にかけて報告数が増加するので注意が必要です。



- 3 **百日咳**:市全体では第16週0.04と落ち着いていますが、中区で1.50と警報レベルとなっています。
- 4 **性感染症**:3月は、性器クラミジア感染症は男性が15件、女性が10件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が14件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が13件、女性が1件でした。
- 5 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎が全国的に増加しており、注意が必要です。全国では、例年定点あたり0.2～0.6程度で推移していましたが、第13週0.71、第14週0.62、第15週0.71、第16週0.79と増加しています。横浜市でも増加がみられ、第13週では定点あたり0.33、14週0.33、15週0.00、16週0.67と、前シーズンの第13週0.00、第14週0.00、第15週0.00、第16週0.00を上回っています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 **基幹定点月報**:3月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症2件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

《今月のトピックス》

- マイコプラズマ肺炎の報告数が昨年と比べて多い状況が続いています。
- 感染性胃腸炎の報告数が例年に比べて多い状態が継続しています。
- 夏季に向けて、腸管出血性大腸菌感染症や咽頭結膜熱などに注意が必要です。

全数把握の対象

- 1 コレラ:O1 エルトール小川型の報告が 1 件ありました。マレーシア(コタキナバル)での経口感染が推定されています。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症:3 件(O157 H7VT2 2 件、O157 VT1VT2 1 件)の報告がありました。O157 H7VT2 の 2 件は、妻の発症(横浜市内での感染が推定されていますが、明らかな感染原因不明)後、接触者検診で夫の感染(無症状保菌者)が確認されたものです。O157 VT1VT2 の 1 件は国内での感染が推定されていますが、明らかな感染原因は不明です。本疾患は例年夏季に感染者数のピークを迎えるので今後の注意が必要です。通常、菌は家畜の腸内に存在し、新鮮な肉を購入しても表面に菌が付着している可能性があり、生肉を切った包丁やまな板の洗浄・消毒や、焼肉の生肉を取る箸と食べる箸を区別する等の予防対策が重要です。また菌は熱に弱いので、肉は十分に加熱(中心部まで 75℃で 1 分間以上加熱)し、生肉や加熱が不十分な肉を食べないことが大切です。特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者で重症化することがあるので注意しましょう。また、感染者から 2 次感染することがあり、予防には手洗いが重要です。
 ◆啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>
- 3 A 型肝炎:2 件の報告がありました。うち 1 件の遺伝子型は I a でした。どちらも国内での経口感染が推定されていますが、明らかな原因は不明です。
- 4 レジオネラ症:肺炎型 2 件の報告がありました。1 件は横浜市内での水系感染(自宅浴槽から LAMP 法でレジオネラ陽性)、もう 1 件は神奈川県内での塵埃または水系感染(こちらも自宅浴槽から LAMP 法でレジオネラ陽性)が推定されています。同居家族の明らかな感染は認められませんでした。レジオネラ肺炎では、2~10 日程度の潜伏期間の後、全身倦怠感、筋肉痛、頭痛、高熱等の症状を呈します。β-ラクタム系及びアミノ配糖体系抗生物質は無効で、マクロライド系、ニューキノロン系等が有効です。入浴施設の利用歴等の確認が重要です。
- 5 アメーバ赤痢:腸管アメーバ症 3 件の報告がありました。1 件は国内での性的接触による感染、1件は感染地域、感染経路とも不明、もう 1 件は中国での経口感染が推定されています。
- 6 急性脳炎:30 代の報告が 1 件ありました。病原体、原因等不明です。
- 7 クロイツフェルト・ヤコブ病:1 件の古典型クロイツフェルト・ヤコブ病の報告がありました。手術歴、渡英歴等ありませんでした。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):1 件の無症候期の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

定点把握の対象

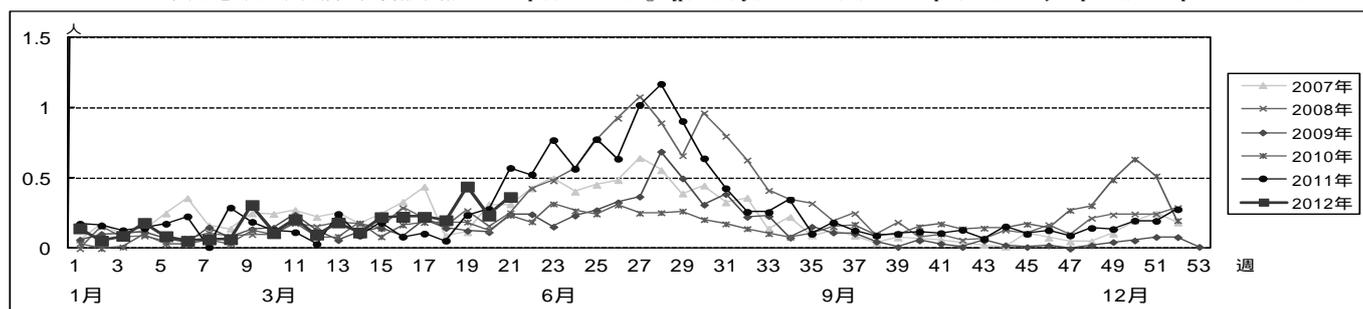
- 1 咽頭結膜熱:市全体で第 21 週 0.37 と落ち着いており、区別にみても流行はみられません。ただ、例年夏季に流行する疾患なので、今後の注意が必要です。

本疾患は発熱、咽頭炎、眼症状を主症状とし、プールでの感染も多く見られることからプール熱とも呼ばれています。原因ウイルスはアデノウイルス 3 型が主ですが、1、4、7、14 型も知られています。特に 7 型は乳幼児や老人では重篤な症状となることがあるので注意が必要です。予防対策は、うがいや手洗いが重要

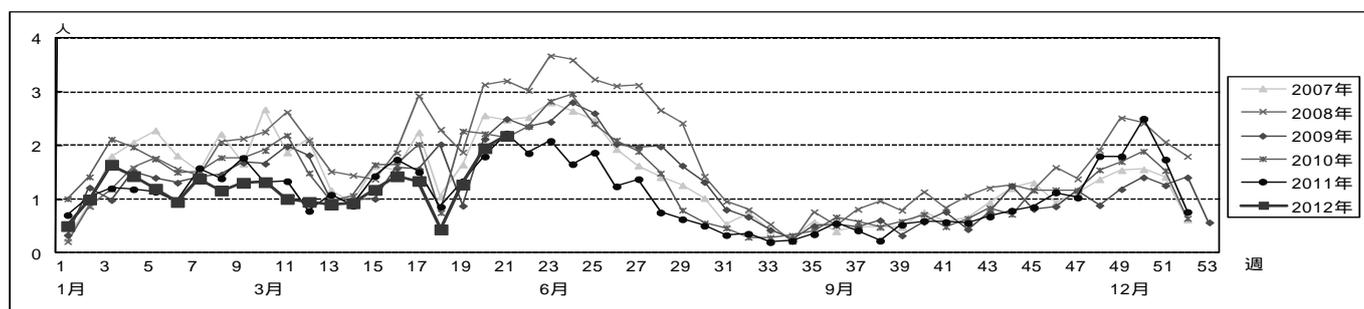
平成 24 年 週一月日対照表	
第 17 週	4 月 23~29 日
第 18 週	4 月 30~5 月 6 日
第 19 週	5 月 7~13 日
第 20 週	5 月 14~20 日
第 21 週	5 月 21~27 日

です。また、プールの前後はシャワーをよく浴びるようにしましょう。学校保健安全法上は、第二種の学校感染症に分類され、出席停止の対象となっており、登校基準は「主要症状が消退した後2日を経過するまで出席停止とする。ただし、病状により伝染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。」とされています

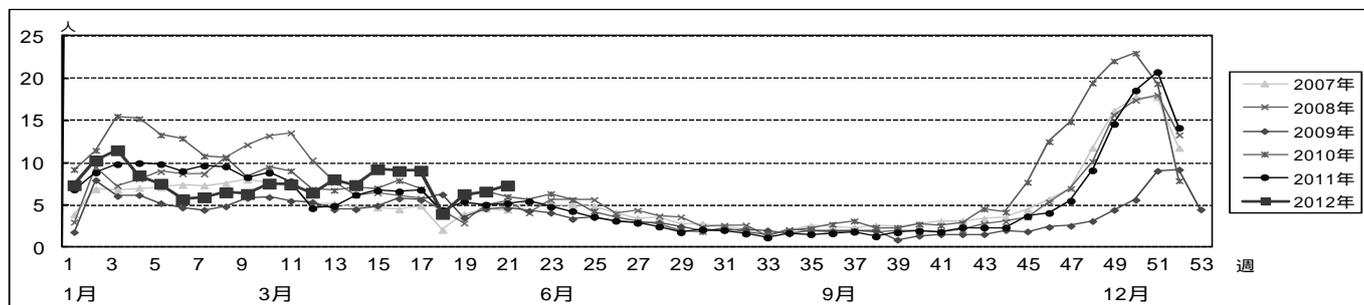
◆国立感染症研究所:咽頭結膜熱とは <http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/a/adeno-pfc/392-encyclopedia/323-pcf-intro.html>



2 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:市内全体、区別でも警報レベル(定点あたり8.0以上)を大きく下回っていますが、第18週0.44、第19週1.28、第20週1.96、第21週2.18と若干増加傾向です。例年5月～8月にかけて報告数が増加するので、今後の注意が必要です。



3 **感染性胃腸炎**:市内全体、区別でも警報レベル(定点あたり20.0以上)を大きく下回っていますが、例年に比べて報告数が多い状態が継続しており、集団発生の報告もあることから引き続き注意が必要です。



4 **性感染症**:4月は、性器クラミジア感染症は男性が22件、女性が10件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が9件です。尖圭コンジローマは男性6件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が12件、女性が0件でした。

5 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は全国的に流行しており、特に昨年度末は1.60～1.40(例年定点あたり0.2～0.6程度で推移)と増加しました。最近では、18週0.66、19週0.74、20週0.79と落ち着いてきたものの、例年を上回る状態が持続しています。横浜市でも第18週0.00、19週0.00、20週1.00と、前シーズンの第18週0.00、第19週0.00、第20週0.00をやや上回っています。細菌性髄膜炎が17週に1件(乳児。原因菌は肺炎球菌。小児用肺炎球菌ワクチン3回接種歴あったものの、ワクチンと血清型が異なっていました。)ありました。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

6 **基幹定点月報**:4月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症7件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

《今月のトピックス》

- 咽頭結膜熱の報告数が増加しています。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が昨年と比べて多い状況が続いています。
- 夏季に向けて、腸管出血性大腸菌感染症に注意が必要です。

全数把握の対象

1 腸管出血性大腸菌感染症:21 件(O157 H7VT1VT2 9 件、O157 VT1VT2 12 件)の報告があり、うち 14 件(有症状者 8 名、無症状保菌者 6 名)は、大和市の同一の焼肉店での食中毒によるものです。他の 7 件については現在原因調査中です。通常、O157 などの菌は家畜の腸内に存在し、新鮮な肉でも表面に菌が付着している可能性があります。O157 食中毒予防のためには肉の中心部までよく加熱(75℃で 1 分間以上)しましょう。また、生肉を箸でつまんだ際に O157 が箸に付着する可能性があるため、生肉を焼き網に載せる箸と、食べるのに使う箸は別にしたリ、トングを使用しましょう。さらに、特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者では、溶血性尿毒症症候群(Hemolytic Uremic Syndrome:HUS)など重症化することがあるので、焼肉の喫食等には十分に注意しましょう。なお、感染者から 2 次感染することがあり、予防には手洗いが重要です。本疾患は例年夏季に感染者数のピークを迎えるので今後の注意がひきつづき必要です。

◆啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」

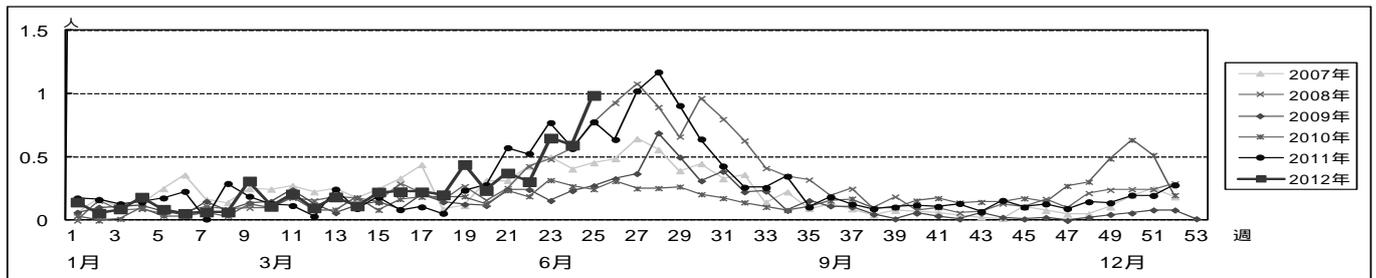
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

- 2 レジオネラ症:ポンティアック型 2 件、肺炎型 2 件の報告がありました。ポンティアック型 2 件は 60 代、70 代で、どちらも感染経路等は不明でした。肺炎型 2 件は 80 代、60 代で、1 件は自宅浴槽から PCR、培養検査とも陽性でした。もう 1 件は自宅浴槽から PCR 陽性、培養検査中です。どちらも同居家族等の明らかな感染は認められませんでした。レジオネラ症には肺炎型とポンティアック型(ポンティアック熱)があり、レジオネラを含んだエアロゾルの曝露を受けた人たちから、0.1%-5%が肺炎型を発病することがあるのに対し、ポンティアック熱の集団発生が見られる場合には、レジオネラを含んだエアロゾルの曝露を受けた人たちの約 90%がポンティアック熱を発病します。肺炎型は重症化することも多いですが、ポンティアック熱は、突然の発熱、悪寒、筋肉痛で始まるものの、一過性で治癒するため、集団発生でないと報告されにくいとされています。
- 3 アメーバ赤痢:腸管アメーバ症 2 件、腸管外アメーバ症 3 件の報告がありました。腸管アメーバ症 2 件のうち、1 件はインドでの経口感染が推定されており、もう 1 件は感染経路感染地域等不明です。腸管外アメーバ症 3 件はすべて肝膿瘍で、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。
- 4 梅毒:2 件の報告がありました。1 件は早期顕症梅毒Ⅱ期で、異性間性的接触でフィリピンセブ島での感染が推定されています。もう 1 件は無症状病原体保有者で、国内での異性間性的接触が推定されています。
- 5 風しん:2 件の報告がありました。1 件は 20 代で発熱と発疹があり、IgM 上昇のため診断となりました。予防接種歴は不明です。もう 1 件は 40 代で、発熱、発疹やリンパ節腫脹などの臨床症状とペア血清による抗体陽転化のため診断となりました。予防接種歴はありませんでした。

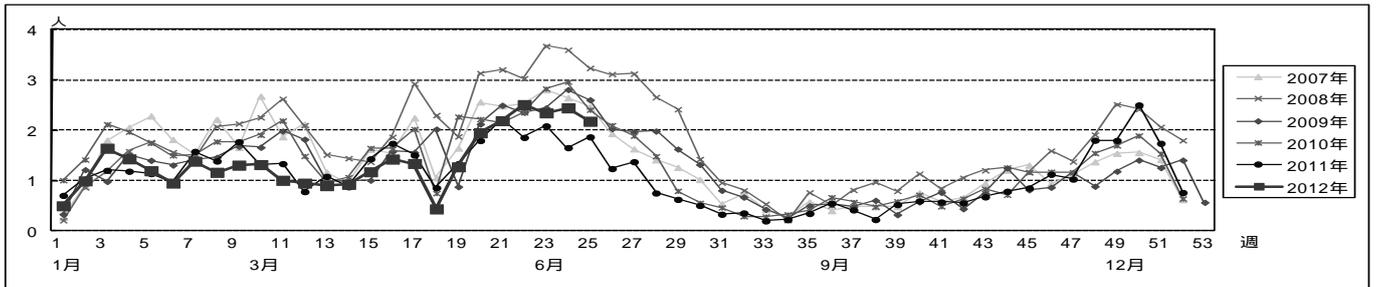
定点把握の対象

1 咽頭結膜熱:市全体で第 25 週 0.99 と増加しています。泉区では 13.00 と警報レベルを上回りました。例年夏季に流行する疾患なので、今後の注意が必要です。予防対策は、うがいや手洗いが重要です。また、プールの前後はシャワーをよく浴びるようにしましょう。学校保健安全法上は、第二種の学校感染症に分類され、出席停止の対象となっており、登校基準は「主要症状が消退した後 2 日を経過するまで出席停止とする。ただし、病状により伝染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。」とされています

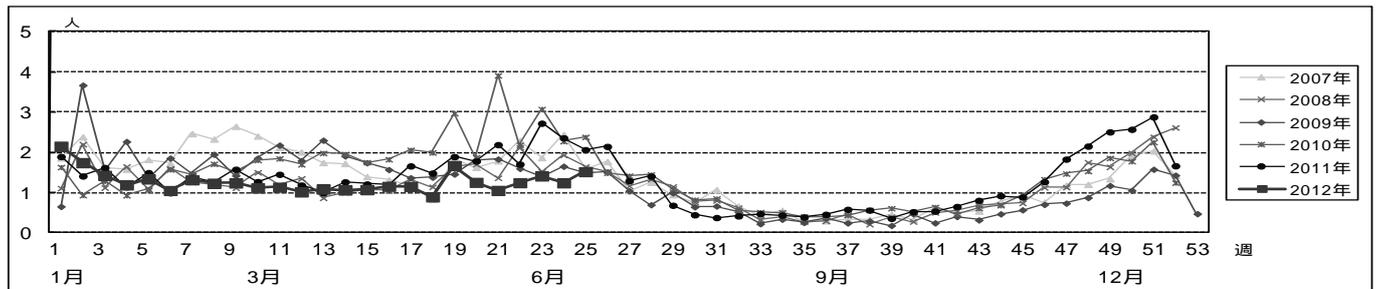
平成 24 年 週一月日対照表	
第 22 週	5 月 28～6 月 3 日
第 23 週	6 月 4～10 日
第 24 週	6 月 11～17 日
第 25 週	6 月 18～24 日



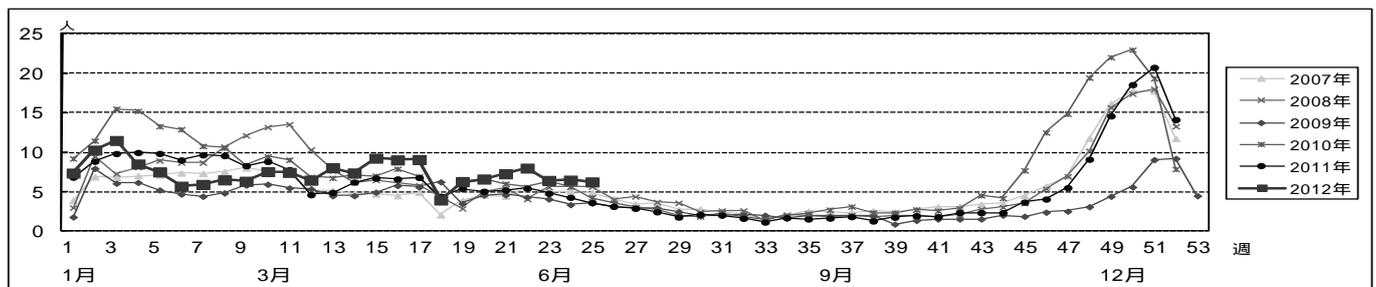
2 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:市全体で第22週に2.51と増加傾向でしたが、第25週では2.18とやや減少しました。区別では瀬谷区で第23週8.25、第24週8.50、第25週7.50と警報レベルを上回る状態が継続しています。例年5月～8月にかけて報告数が増加するので、今後の注意が必要です。



3 **水痘**:市内全体で第25週1.52と落ち着いていますが、緑区で4.25と注意報レベルを上回っています。



4 **感染性胃腸炎**:市内全体、区別でも警報レベル(定点あたり20.0以上)を大きく下回っていますが、例年に比べて報告数がやや多い状態が継続しています。



5 **性感染症**:5月は、性器クラミジア感染症は男性が25件、女性が12件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が8件です。尖圭コンジローマは男性4件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が13件、女性が0件でした。

6 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は全国的に流行しており、特に昨年度末は1.60～1.40(例年定点あたり0.2～0.6程度で推移)と増加しました。最近では、22週0.83、23週0.88、24週0.82、25週0.90と落ち着いてきたものの、例年を上回る状態が持続しています。横浜市でも第22週0.00、23週2.50、24週1.00、25週2.00と、前シーズンの第22週0.50、第23週0.50、第24週1.00、25週0.33をやや上回っています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

7 **基幹定点月報**:5月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症6件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

- 成人男性を中心に風しんが流行しています。
- ヘルパンギーナの報告数が増加しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が昨年と比べて多い状況が続いています。
- 夏休みの海外旅行先における感染症に注意が必要です。

全数把握の対象

- 腸管出血性大腸菌感染症: 7 件(O26 VT1 4 件、O157 VT2 2 件、O157 VT1VT2 1 件)の報告がありました。このうち、O26 VT1 の 3 件は同一家族で、原因は現在調査中です。他の事例については、明らかな共通食や同じ店舗の利用などは現在のところ不明です。本疾患は例年夏季に感染者数のピークを迎えるので今後の注意がひきつづき必要です。
 啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>
- デング熱: 1 件の報告がありました。渡航先(タイ)での感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外での感染で、タイ、インド、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、ラオス、カンボジアなどでの感染が多く報告されています。
- マラリア: 1 件の熱帯熱マラリアの報告がありました。渡航先(ガーナ)での感染が推定されています。

海外での感染症予防情報掲載ホームページ

これから海外旅行に出かける人が増えることが予想され、感染症に注意が必要です。

夏休みに海外へ渡航される皆さまへ(厚生労働省検疫所)

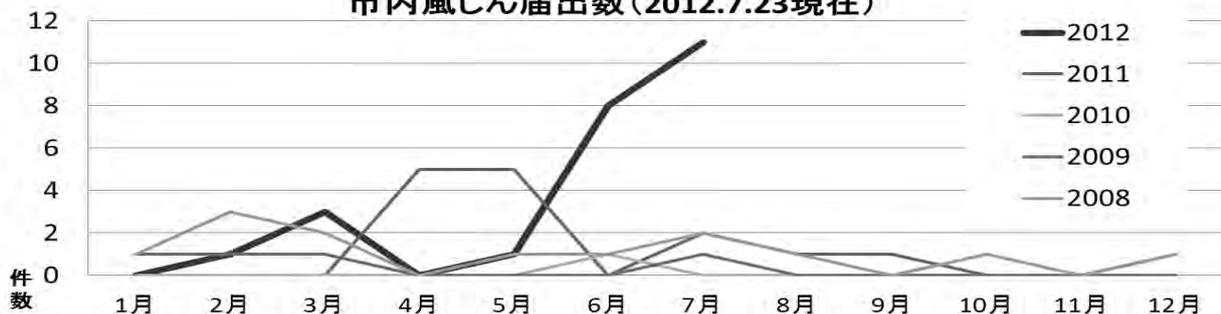
<http://www.forth.go.jp/news/2012/07091539.html>

2012 年夏休み期間中における海外での感染症予防について(厚生労働省)

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel/2012summer.html

- レジオネラ症: 肺炎型 2 件の報告がありました。どちらも 70 歳以上の高齢者で、尿中抗原陽性のため診断されましたが、感染の原因は不明でした。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 1 件の報告がありました。国内での感染が推定されていますが、感染経路は不明です。
- 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): AIDS 1 件、無症候期 1 件の報告がありました。AIDS の症例では、同性間性的接触による感染が推定されており、感染地域は不明です。無症候期の症例では、異性間性的接触による感染が推定されており、インドネシアでの感染が推定されています。
- バンコマイシン耐性腸球菌感染症: 1 件の VanB 型の報告がありました。現在、感染経路等を調査中です。
- 風しん: 11 件の報告がありました。6 月以降、市内の届出が急増しており、既に昨年 1 年間の約 1.5 倍(24 件)となっています。流行の中心は予防接種歴の無い、あるいは不明の 30~40 代の男性ですが、10~20 代でも報告されています。風しんの免疫を持たない女性が妊娠中(特に妊娠初期)に感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴を主な症状とする先天性風しん症候群の児が生まれる可能性があります。流行を抑えるためには、女性だけでなく、男性の予防接種も重要です。

市内風しん届出数(2012.7.23現在)



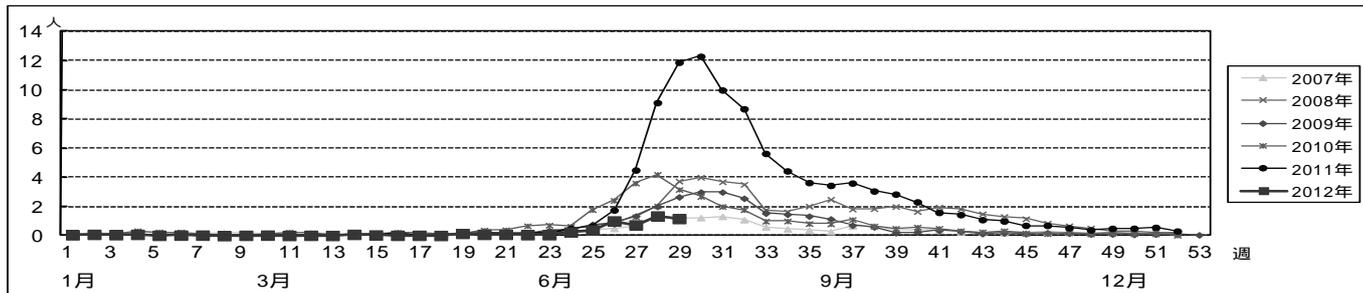
横浜市感染症臨時情報: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

9 麻しん:5件(40代2件、20代1件、幼児2件)の報告がありました。幼児2件では、どちらも予防接種でMR1期接種済みでしたが、他は予防接種歴が無いが、不明でした。全例で感染経路は不明で、周囲に他の感染者はいませんでした。麻しんの届出後に風しんの診断に差し替えになるケースもあります。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「麻しん検査診断アルゴリズム」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期のPCR検査が有用です。

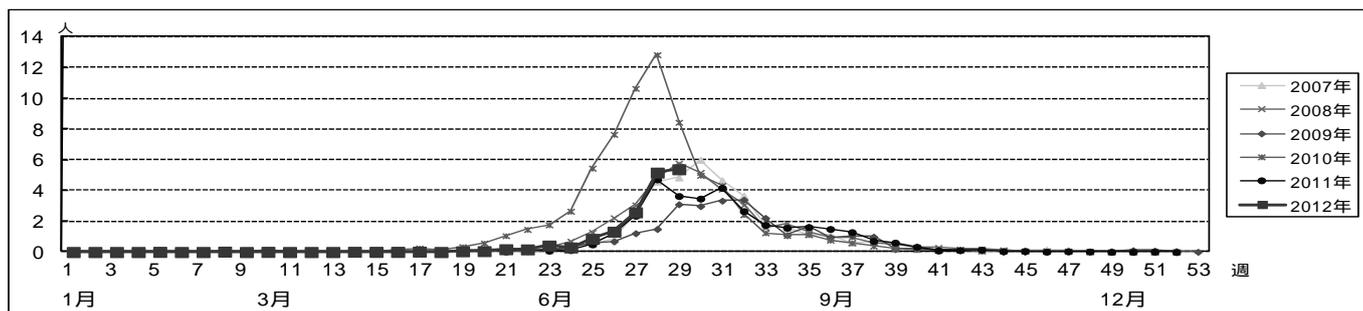
定点把握の対象

1 手足口病:市全体で第29週 1.18 とやや増加しています。泉区 9.00 瀬谷区 2.00 で警報レベルとなっています。例年夏季に増加する疾患ですが、現在のところ、例年に比べ少ない報告となっています。

平成24年 週 - 月日対照表	
第26週	6月25～7月1日
第27週	7月2～8日
第28週	7月9～15日
第29週	7月16～22日



2 ヘルパンギーナ:市全体で第29週 5.38 と増加しています。神奈川区 11.80、金沢区 8.00、緑区 12.00、青葉区 6.14、栄区 8.00、泉区 7.00、瀬谷区 13.50 と7区で警報レベルとなっています。



3 性感染症:6月は、性器クラミジア感染症は男性が15件、女性が11件でした。性器ヘルペス感染症は男性が8件、女性が14件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が0件でした。淋菌感染症は男性が11件、女性が1件でした。

4 基幹定点週報:マイコプラズマ肺炎は全国的に流行しており、特に昨年度末は 1.60～1.40(例年定点あたり 0.2～0.6 程度で推移)と増加しました。最近では、第26週 0.83、27週 0.95、28週 0.91、29週 0.84 と落ちてきたものの、例年を上回る状態が持続しています。横浜市でも第26週 1.67、27週 1.00、28週 1.50、29週 1.50 と、前シーズンの第26週 0.66、27週 0.33、28週 0.33、29週 0.67 をやや上回っています。第28週に無菌性髄膜炎(30代女性、病原体は未検出)が1件報告されました。第29週には細菌性髄膜炎(40代女性、髄液から原因菌検出されませんでした。頸部硬直等の神経学的所見、CRP および WBC 上昇および髄液の細胞数上昇などの所見より細菌性髄膜炎との診断となりました。)が1件報告されました。クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

5 基幹定点月報:6月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件、薬剤耐性緑膿菌感染症1件で、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

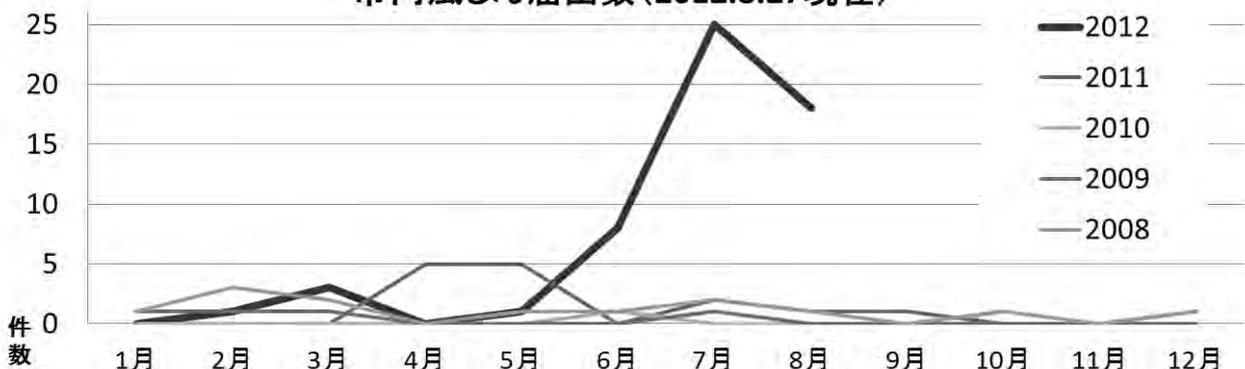
今月のトピックス

- 成人男性を中心に風しんが流行しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

全数把握の対象

- 腸管出血性大腸菌感染症:** 7 件 (O157 VT1VT2 4 件, O157 VT2 1 件, O157 H7 VT2 1 件, O103 VT1 1 件) の報告がありました。これらの事例の感染経路、感染原因は現在調査中です。本疾患は例年夏季に感染者数が多く、引き続き注意が必要です。
 啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>
- デング熱:** 3 件の報告がありました。すべて渡航先(フィリピン、インド、タイ)での感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外での感染で、タイ、インド、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、ラオス、カンボジアなどでの感染が多く報告されています。
- レジオネラ症:** 肺炎型 2 件の報告があり、どちらも尿中抗原陽性のため診断されましたが、感染の原因は現在調査中です。
- レプトスピラ症:** 1 件の報告がありました。観光旅行先(ラオス)での川下りによる水系感染が推定されています。レプトスピラ症は、病原性レプトスピラの感染によって発症する急性熱性疾患です。病原性レプトスピラの保菌動物の尿で汚染された環境での労働やレジャーの他、保菌動物の尿や血液に直接触れる可能性のある労働などでの感染が報告されています。感冒様症状のみで軽快する軽症型から、黄疸、出血、腎障害を伴う重症型(ワイル病)まで多彩な症状を示します。国内でもカヤックインストラクターなど、河川でのレジャー産業に従事する人達や、ネズミなどへ接触した人で散発事例がみられています。一方、国外ではブラジルなどの中南米、タイなどの東南アジアなど、熱帯、亜熱帯の国々で流行しています。詳しくは下記ホームページをご参照ください。
 レプトスピラ症について(国立感染症研究所)
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ra/leptospirosis/392-encyclopedia/531-leptospirosis.html>
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/29/335/tpc335-j.html>
- 急性脳炎:** 2 件(どちらも幼児)の報告がありました。病原体は現在調査中です。
- 梅毒:** 3 件の報告がありました。2 件は早期顕症梅毒 期で、国内での異性間性的接触および同性間性的接触での感染が推定されています。もう 1 件は早期顕症梅毒 期で、国内での性的接触が推定されています。
- 風しん:** 18 件の報告がありました。6 月下旬以降、市内の届出が急増しており、既に昨年 1 年間の約 4 倍(56 件)となっています。流行の中心は予防接種歴の無い、あるいは不明の 20~40 歳代の男性ですが、10 歳代以下でも報告されています。風しんの免疫を持たない女性が妊娠中(特に妊娠初期)に感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴を主な症状とする先天性風しん症候群の児が生まれる可能性があります。流行を抑えるためには、女性だけでなく、男性の予防接種も重要です。

市内風しん届出数(2012.8.27現在)

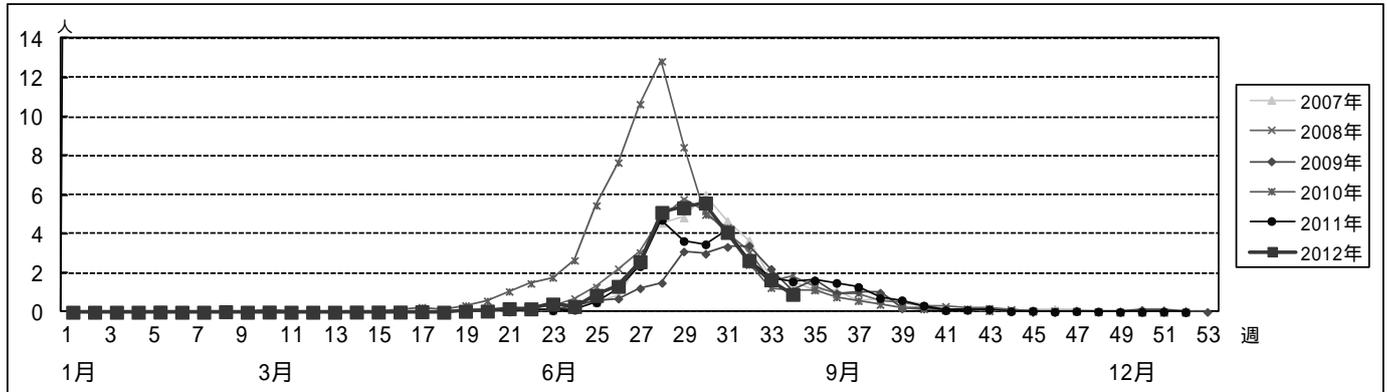


横浜市感染症臨時情報: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

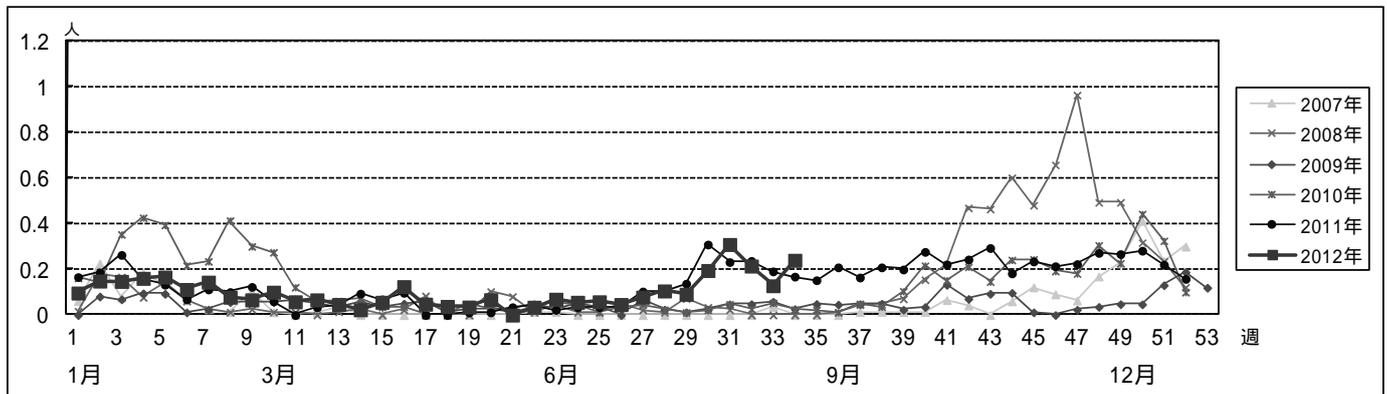
定点把握の対象

平成 24 年 週 - 月日対照表	
第 30 週	7 月 23 ~ 29 日
第 31 週	7 月 30 日 ~ 8 月 5 日
第 32 週	8 月 6 ~ 12 日
第 33 週	8 月 13 ~ 19 日
第 34 週	8 月 20 ~ 26 日

- 1 **ヘルパンギーナ**:今季の流行は市全体で第 30 週に定点あたり 5.59 とピークとなった以降は減少傾向が続き、第 34 週は 0.91 と落ち着き、今季の流行は終息したものとされます。区別でも、警報レベルの流行は見られません。



- 2 **RSウイルス感染症**:第 34 週は市全体で定点あたり 0.24 と、大きな流行は見られませんが、最近 5 年間の中では比較的報告が多い状況です。



- 3 **性感染症**:7 月は、性器クラミジア感染症は男性が 21 件、女性が 13 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 6 件、女性が 10 件です。尖圭コンジローマは男性 7 件、女性が 3 件でした。淋菌感染症は男性が 16 件、女性が 1 件でした。
- 4 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は全国的に流行しており、特に昨年度末は 1.60 ~ 1.40 (例年定点あたり 0.2 ~ 0.6 程度で推移) と増加しました。最近では少し落ち着いてきたものの、第 30 週 0.98、31 週 0.94、32 週 0.98、33 週 1.14、34 週 0.98 と、0.80 ~ 1.00 程度の報告が多い状態が持続しています。横浜市でも第 30 週 2.33、31 週 0.00、32 週 1.50、33 週 1.00、34 週 0.00 と、やや報告が多い状態が継続しています。第 30 週に無菌性髄膜炎 2 件(どちらも 30 代女性、病原体は未検出)、第 34 週に 2 件(どちらも幼児、病原体は未検出)報告されました。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 5 **基幹定点月報**:7 月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 8 件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

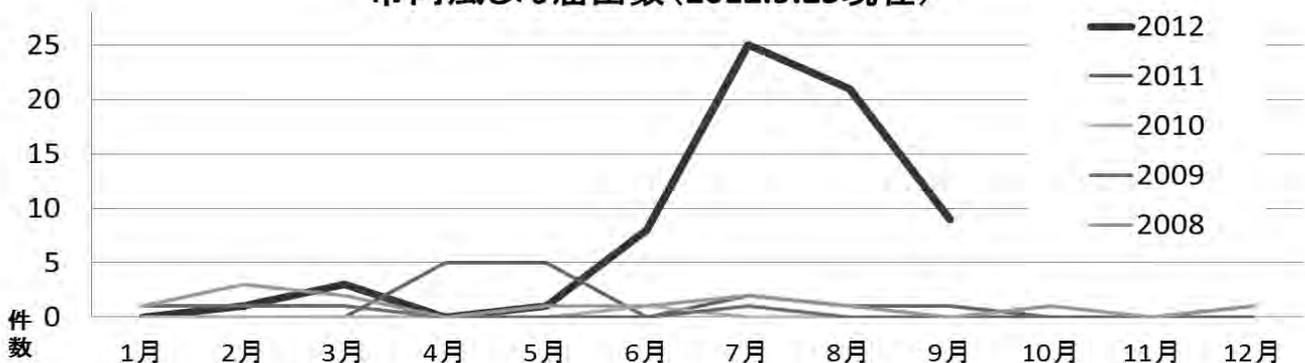
今月のトピックス

- RS ウイルス感染症の報告が増加しています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加しています。
- 成人男性を中心に風しんが流行しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

全数把握の対象

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**: 14 件(O157 VT1VT2 4 件、O157 H7VT1VT2 1 件、O157 VT2 4 件、O157 H7 VT2 2 件、O145 VT2 1 件、O26 VT1 1 件、O26 VT2 1 件)の報告がありました。この中には 4 つの家族での家族内発症がありましたが、感染原因はいずれも調査中です。腸管出血性大腸菌感染症の家庭内での感染予防法は手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。
 啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>
- 2 **腸チフス**: 1 件の報告がありました。渡航先(インドネシア)での感染が推定されています。
- 3 **デング熱**: 1 件の報告がありました。渡航先(ラオス、タイ、インドネシア)での感染が推定されています。
- 4 **レジオネラ症**: 肺炎型 1 件の報告がありました。感染の原因は現在調査中です。
- 5 **アメーバ赤痢**: 腸管アメーバ症 1 件の報告がありました。国内での感染が推定されていますが感染経路は不明です。
- 6 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)**: 2 件の報告がありました。1 件は無症状病原体保有者で、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。もう 1 件は AIDS 症例(クリプトコッカス症(髄膜炎))で、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 7 **梅毒**: 2 件の報告がありました。1 件は無症状病原体保有者で、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。もう 1 件は早期顕性梅毒(一期)で、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。
- 8 **風しん**: 9 件の報告がありました。全国的な流行は第 30 週をピークに減少傾向となりましたが、東京都や神奈川県を中心とした関東地方や、兵庫県、大阪府などの関西地方などでは現在も流行が継続しています。横浜市でも 9 月に入っても依然報告が続いており、引き続き注意が必要です。流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の 20～40 歳代の男性ですが、10 歳代以下でも報告されています。風しんの免疫を持たない女性が妊娠中(特に妊娠初期)に感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴を主な症状とする先天性風しん症候群の児が生まれる可能性があります。流行を抑えるためには女性だけでなく、男性の予防接種も重要です。

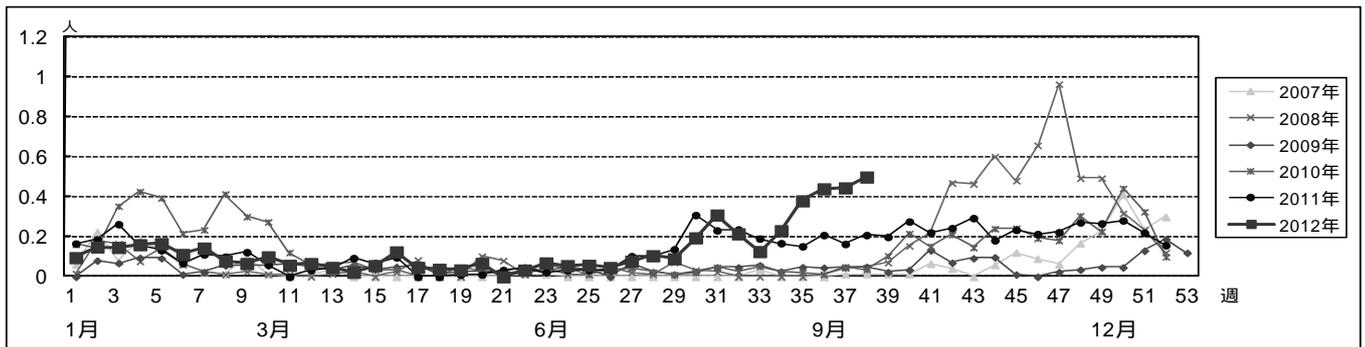
市内風しん届出数(2012.9.25現在)



定点把握の対象

- 1 **RSウイルス感染症**:第33週は定点あたり0.13でしたが、その後増加し続け、38週は定点あたり0.50と、例年を大きく上回っています。RSウイルス感染症は、乳幼児の肺炎の原因の約50%、細気管支炎の50~90%を占めるとの報告もあり、また、低出生体重児や、心肺系に基礎疾患があったり、免疫不全が存在する場合には重症化のリスクは高く、臨床上、公衆衛生上重要な疾患です。RSウイルス感染症は例年冬期にピークがみられ、夏期には報告数が少なかった疾患ですが、全国的には2011年、2012年と2年連続して7月頃から増加傾向がみられています。2012年の報告数は第28週以降増加し、34週0.37、35週0.64、36週0.89、37週1.21、38週1.14と急激な増加がみられています。都道府県別の報告をみると、第38週では、宮崎県5.83、福岡県4.67、佐賀県4.43、山口県3.52となっています。関東周辺では東京都1.31、千葉県0.76、神奈川県0.41となっています。今後の流行に注意が必要です。

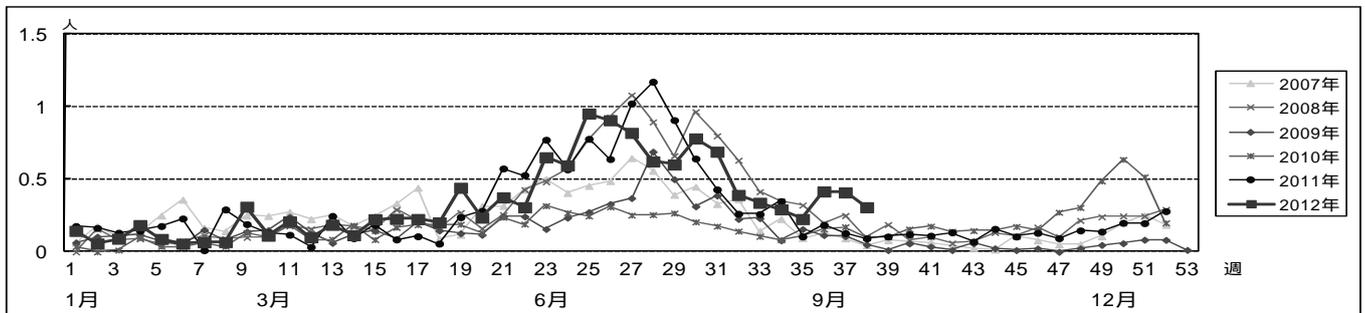
平成24年 週 - 月日対照表	
第35週	8月27日~9月2日
第36週	9月3~9日
第37週	9月10~16日
第38週	9月17~23日



IDWR 第36週:注目すべき感染症「RSウイルス」

<http://www.nih.go.jp/niid/images/idwr/kanja/idwr2012/idwr2012-36.pdf>

- 2 **咽頭結膜熱**:第38週は市全体で定点あたり0.31と、大きな流行は見られませんが、最近5年間の中では比較的報告が多い状況です。



- 3 **性感染症**:8月は、性器クラミジア感染症は男性が23件、女性が9件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が12件です。尖圭コンジローマは男性1件、女性が4件でした。淋菌感染症は男性が17件、女性が1件でした。
- 4 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は全国的に流行しており、特に昨年度末は1.60~1.40(例年定点あたり0.2~0.6程度で推移)と増加しました。今年の初めは減少傾向が続いていたものの、第18週付近から再び上昇傾向を示しており、第35週1.09、36週1.08、37週1.10、38週1.05と、1.00を上回るようになりました。横浜市でも第35週1.33、36週0.00、37週1.00と、やや報告が多い状態が継続しています。無菌性髄膜炎が第35週に1件(幼児、病原体は未検出)、第37週に1件(幼児、病原体は未検出)報告されました。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 5 **基幹定点月報**:8月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症5件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

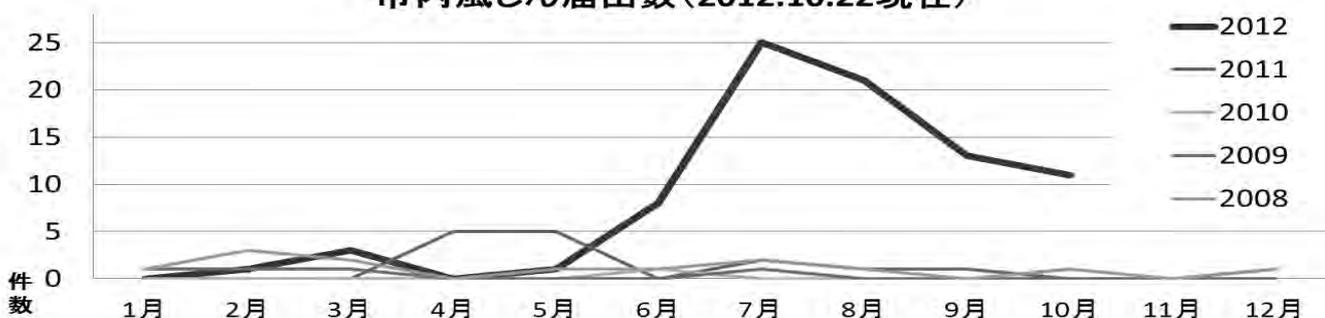
今月のトピックス

- 風しんの流行が継続しています。
- RS ウイルス感染症の報告数が多い状況が続いています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

全数把握の対象

- 1 細菌性赤痢: 1 件の Shigella sonnei の報告がありました。渡航先(インド)での感染が推定されています。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症: 8 件(O157 VT1VT2 4 件, O157 H7VT1VT2 1 件, O157 H7VT2 1 件, O111 VT1VT2 2 件)の報告がありました。O111 の 2 例はきょうだい例でした。感染原因はいずれも調査中です。腸管出血性大腸菌感染症の感染予防法は手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。
 啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>
- 3 デング熱: 2 件の報告がありました。どちらも渡航先(1 件はフィリピン、もう 1 件はインド)での感染が推定されています。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 3 件の報告がありました。1 件は国内での感染が推定されているものの感染経路は不明、もう 1 件は国内での異性間性的接触による感染が推定されています。残るもう 1 件は感染経路感染地域等不明でした。
- 5 ウイルス性肝炎: 1 件の B 型肝炎の報告がありました。横浜市内での異性間性的接触による感染が推定されています。
- 6 急性脳炎: 1 件(幼児)の報告がありました。病原体は HSV(型別不明)でした。
- 7 クロイツフェルト・ヤコブ病: 1 件の古典型クロイツフェルト・ヤコブ病の報告がありました。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 1 件の無症状病原体保有者の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 9 ジアルジア症: 1 件の報告がありました。カザフスタンでの経口感染が推定されています。
- 10 バンコマイシン耐性腸球菌感染症: 胆管炎患者の胆汁から検出された、1 件の vanC 型の報告がありました。
- 11 風しん: 11 件の報告がありました。全国的な流行は第 30 週をピークに減少傾向となっていますが、東京都を中心とした関東地方や、大阪府などの関西地方などでは現在も流行が継続しています。横浜市でも 10 月に入っても依然報告が続いており、引き続き注意が必要です。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しん HI 抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています。さらに、今回の流行の中心は、予防接種歴が無い、あるいは不明の 20~40 歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。

市内風しん届出数(2012.10.22現在)



風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

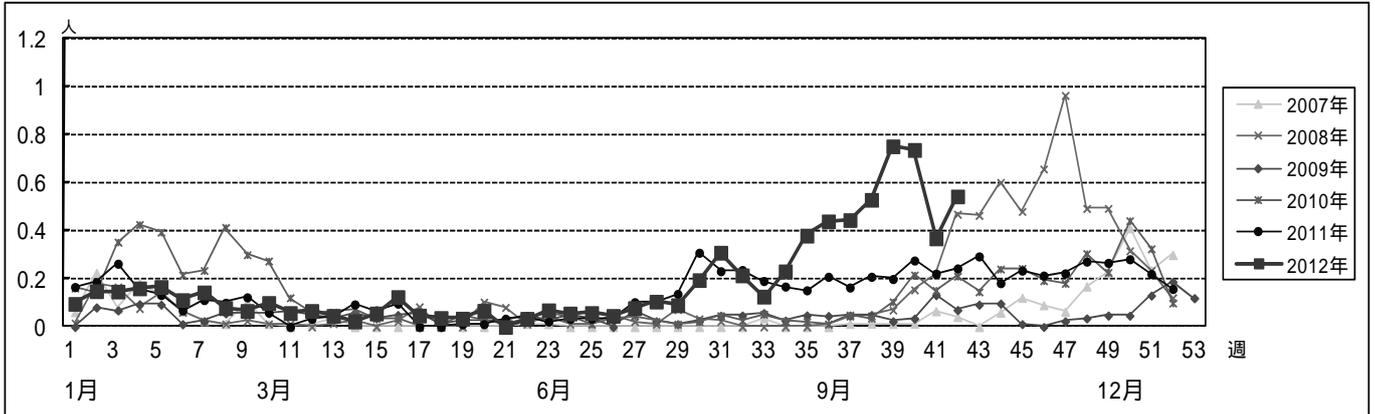
<http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>

横浜市感染症臨時情報: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

定点把握の対象

- 1 **RSウイルス感染症**: 今年は30週頃から全国的に流行がみられています。市内でも7月ごろから増加し、39週は定点あたり0.75となりましたが、翌40週から減少に転じ、42週では0.54となりました。ただ、全国的には流行が継続しており、引き続き注意が必要です。都道府県別の報告をみると、第42週では、福井県3.09、山形県2.83、新潟県2.82、宮崎県2.58、秋田県2.46、佐賀県2.17となっています。関東周辺では東京都1.15、千葉県0.74、神奈川県0.52となっています。

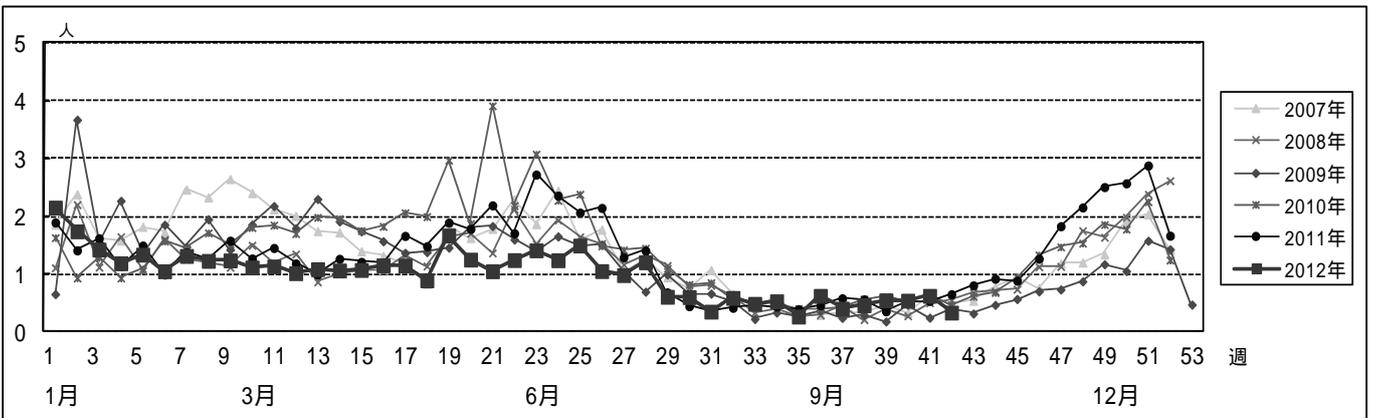
平成24年 週 - 月日対照表	
第39週	9月24日～30日
第40週	10月1～7日
第41週	10月8～14日
第42週	10月15～21日



IDWR 第40週: 注目すべき感染症「RSウイルス」

<http://www.nih.go.jp/niid/images/idwr/kanja/idwr2012/idwr2012-40.pdf>

- 2 **水痘**: 第42週は市全体で定点あたり0.34と、大きな流行は見られませんが、38週0.47、39週0.55、40週0.55、41週0.63と報告が増加傾向にあり、例年これからの時期に流行がみられるので注意が必要です。



- 3 **性感染症**: 9月は、性器クラミジア感染症は男性が28件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が4件、女性が4件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が18件、女性が0件でした。
- 4 **基幹定点週報**: 最近マイコプラズマ肺炎は全国的に流行していますが、今年春ごろから徐々に増加し続け、第35週以降は定点あたり1.00を超えています。さらに、第39週1.18、第40週1.26、第41週1.08と報告数の多い状況は続いています。横浜市でも第39週2.00、第40週2.33、第41週1.67と、報告が多い状態が継続しています。無菌性髄膜炎が第40週に1件(幼児、病原体は未検出)報告されました。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 5 **基幹定点月報**: 9月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

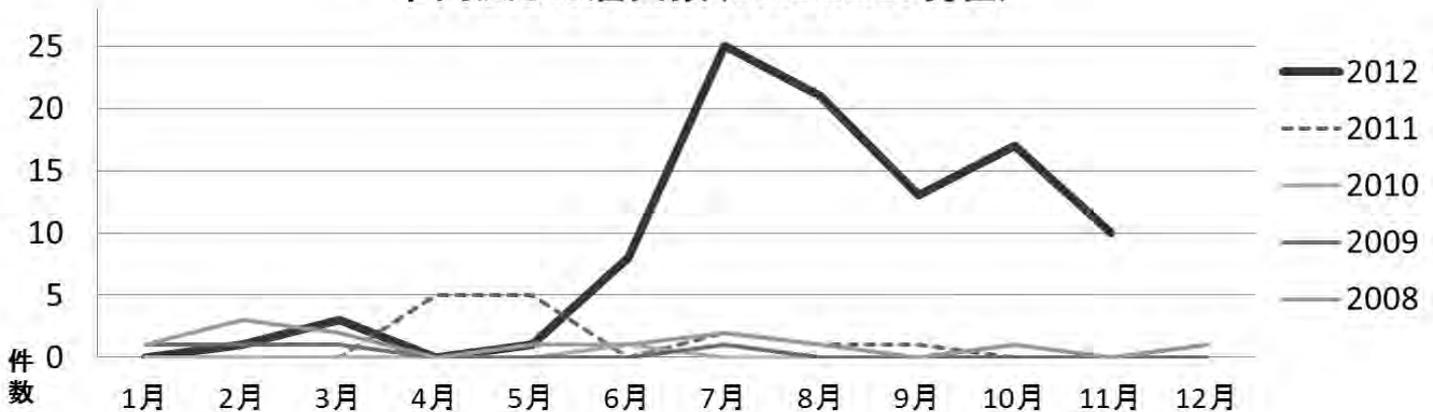
今月のトピックス

- 感染性胃腸炎が流行しています。
- 風しんの流行が継続しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

全数把握の対象

- 1 **細菌性赤痢**: 1 件の *Shigella sonnei* の報告がありました。国内での感染が推定されていますが、感染経路等不明です。
- 2 **A 型肝炎**: 1 件の報告がありました。国内での経口感染が推定されています。
- 3 **レジオネラ症**: 2 件の肺炎型の報告がありました。どちらも感染の原因は現在調査中です。
- 4 **アメーバ赤痢**: 腸管アメーバ症 3 件の報告がありました。すべて国内での感染が推定されています。1 件は同性間性的接触による感染、もう 1 件は性的接触による感染(同性間か異性間か不明)が推定されています。残るもう 1 件は感染経路等不明でした。
- 5 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)**: 4 件(AIDS 2 件、無症状病原体保有者 1 件、その他 1 件)の報告がありました。AIDS の 1 件は HIV 消耗性症候群(スリム病)での発症で、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。もう 1 件はニューモシスチス肺炎での発症で、国内での感染が推定されていますが感染経路不明です。無症状病原体保有者の 1 件は、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。その他の 1 件は抗 HIV 抗体陽性で、頸部リンパ節腫脹や咳などの症状を認めています。これらの症状が AIDS によるものかどうか等の診断がまだされていない事例です。国内での同性間・異性間性的接触による感染が推定されています。
- 6 **風しん**: 10 件(男性 9 件、女性 1 件)の報告がありました。全国的な流行は第 30 週をピークに減少傾向となっていますが、東京都を中心とした関東地方や、大阪府などの関西地方などでは現在も流行が継続しています。横浜市でも 11 月に入っても依然報告が続いており、引き続き注意が必要です。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しん HI 抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています。さらに、今回の流行の中心は、予防接種歴が無い、あるいは不明の 20~40 歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。

市内風しん届出数(2012.11.26現在)



風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

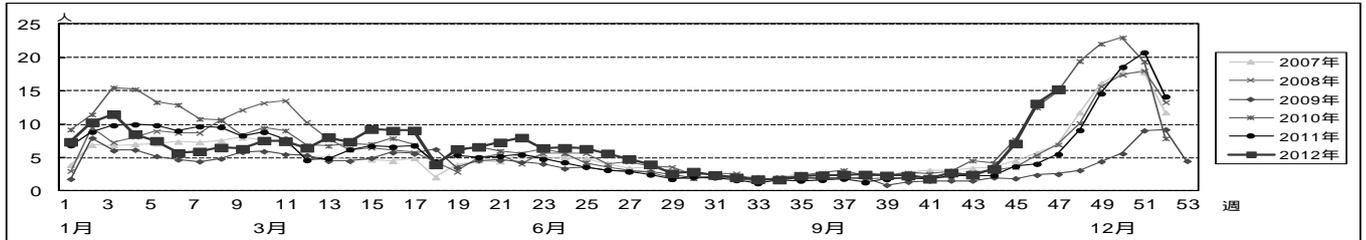
<http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>

横浜市感染症臨時情報: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

定点把握の対象

- 1 **感染性胃腸炎**: 今年(2012年)は41週頃から全国的に増加し、第47週では定点あたり13.02となっています。横浜市でも第47週15.23と急速に増加しており、区別では神奈川区30.60、都筑区28.00、磯子区22.25、栄区22.00、港北区21.63と、5区で警報レベル(定点あたり20.00以上)を上回っています。例年年末にかけてさらに流行するため、引き続き注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

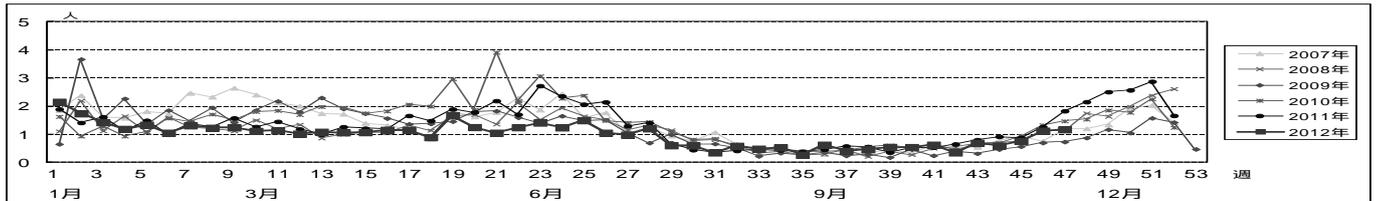
第43週	10月22～28日
第44週	10月29～11月4日
第45週	11月5～11日
第46週	11月12～18日
第47週	11月19～25日



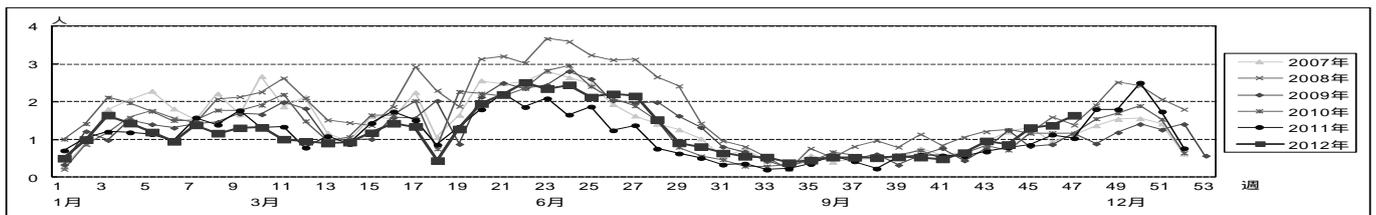
横浜市衛生研究所: 次亜塩素酸の詳しい使用方法 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>

横浜市衛生研究所: 横浜市感染症臨時情報 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

- 2 **水痘**: 第47週は市全体で定点あたり1.18と、大きな流行は見られませんが、45週0.76、46週1.13と報告が増加傾向にあり、区別では神奈川区4.40、都筑区4.33と2区で注意報レベル(定点あたり4.00以上)を上回っており、注意が必要です。



- 3 **インフルエンザ**: 第47週は市全体で定点あたり0.08と大きな流行は見られませんが、今後の流行期に向け注意が必要です。
- 4 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 第47週は市全体で定点あたり1.64と警報レベル(定点あたり8.00以上)を大きく下回っていますが、増加傾向です。



- 5 **性感染症**: 10月は、性器クラミジア感染症は男性が13件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が6件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が11件、女性が1件でした。
- 6 **基幹定点週報**: 現在マイコプラズマ肺炎は全国的に流行しており、第44週1.31、第45週1.26、第46週1.32、第47週1.06と報告数の多い状況が続いています。横浜市でも第44週5.33、第45週3.00、第46週2.67、第47週0.67と、報告が多い状態が継続しています。細菌性髄膜炎が第46週に1件(80歳代、病原体は未検出)、第47週に1件(40歳代、肺炎球菌)報告されました。また、無菌性髄膜炎が第43週に1件(幼児、病原体は未検出)ありました。クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 7 **基幹定点月報**: 10月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症9件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症2件が報告されました。薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

今月のトピックス

- 感染性胃腸炎が流行しています。
- インフルエンザが流行期に入りました。
- 風しんの流行が継続しています。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎が瀬谷区で警報レベルです。
- RS ウイルス感染症が再び増加傾向です。
- 咽頭結膜熱が例年に比べ報告数が多くなっています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

全数把握の対象

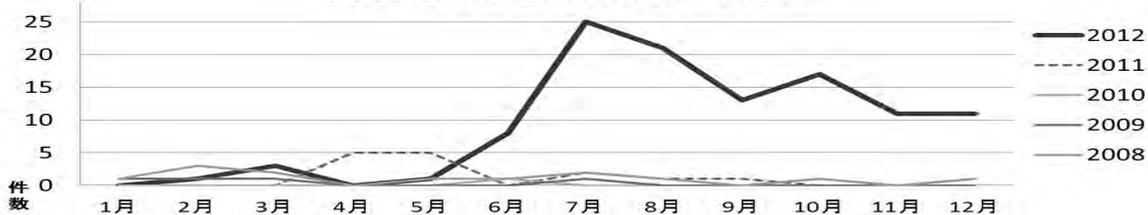
- 1 細菌性赤痢: 1 件の *Shigella sonnei* の報告がありました。エジプトでの経口感染が推定されています。
- 2 レジオネラ症: 2 件の肺炎型の報告がありました。どちらも感染の原因は現在調査中です。
- 3 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 4 件の報告がありました。いずれも国内での感染が推定されており、うち 1 件は性的接触による感染、もう 1 件は経口感染が推定されています。残るもう 2 件は感染経路等不明でした。
- 4 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 3 件(AIDS 2 件、無症状病原体保有者 1 件)の報告がありました。AIDS のうち、1 件はニューモシスティス肺炎による発症で、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。もう 1 件は HIV 脳症による発症で、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。無症状病原体保有者の 1 件は国内での異性間性的接触による感染が推定されています。
- 5 風しん: 11 件(男性 7 件、女性 4 件)の報告がありました。全国的な流行は第 30 週をピークに減少傾向となっていた第 44 週から下げ止まり、東京都を中心とした関東地方や、大阪府などの関西地方などでは現在も流行が継続しています。横浜市でも 12 月に入っても依然報告が続いており、引き続き注意が必要です。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しん HI 抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています。さらに、今回の流行の中心は、予防接種歴が無い、あるいは不明の 20~40 歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。

風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

<http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>

横浜市感染症臨時情報: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

市内風しん届出数(2012.12.25現在)

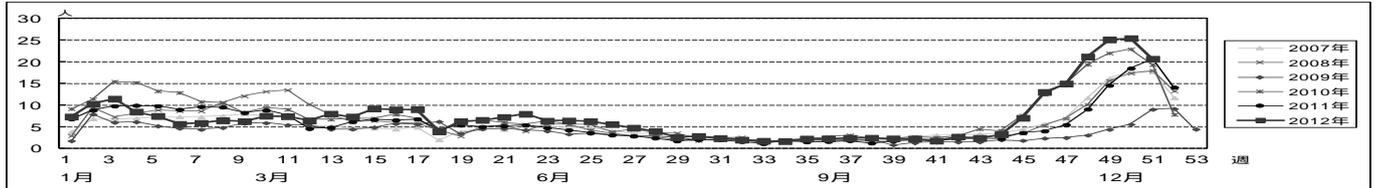


定点把握の対象

- 1 感染性胃腸炎: 第 48 週に定点あたり 21.21 となり、警報が発令された後も増え続け、第 50 週には 25.47 となりましたが、第 51 週は 20.70 とやや減少しました。しかし、依然として流行しているため引き続き注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

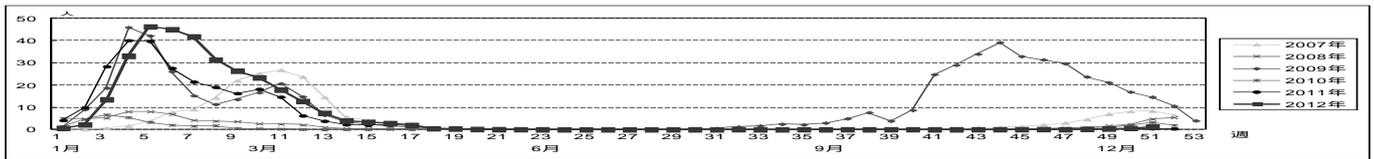
第 48 週	11 月 26 ~ 12 月 2 日
第 49 週	12 月 3 ~ 9 日
第 50 週	12 月 10 ~ 16 日
第 51 週	12 月 17 ~ 23 日

横浜市衛生研究所: 次亜塩素酸の詳しい使用方法 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>

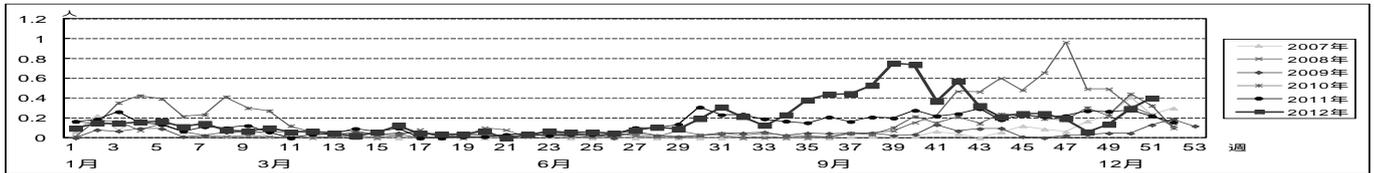


- 2 **インフルエンザ**:第51週に市全体で定点あたり1.21となり、流行開始の目安となる1.00人を超えました。全国では既に第50週に1.17となり、流行期に入っています。全国のウイルス検出状況では、AH3亜型(A香港型)が主流となっています。今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策が重要です。

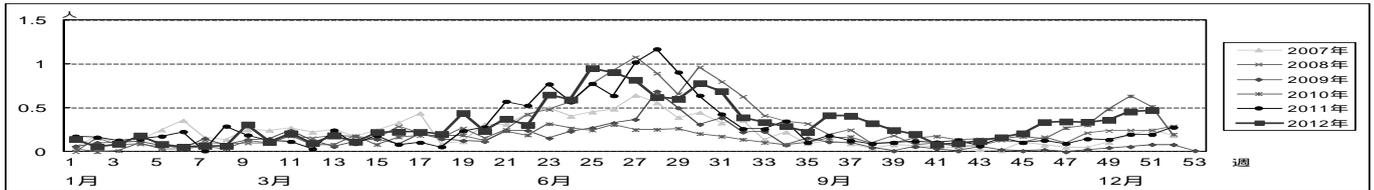
インフルエンザ予防チラシ(横浜市) インフルエンザ臨時情報



- 3 **RSウイルス感染症**:第48週は市全体で定点あたり0.06と減少していましたが、第51週では0.40と、上昇に転じており注意が必要です。

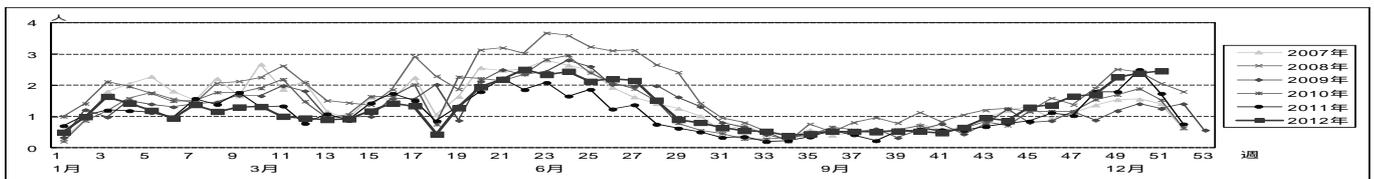


- 4 **咽頭結膜熱**:第51週0.48と例年より報告が多くなっています。区別では港北区1.86となっています。



- 5 **水痘**:第51週は市全体で定点あたり2.04と、大きな流行は見られませんが、神奈川区4.20で注意報レベル(定点あたり4.00以上)を上回っており、注意が必要です。

- 6 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:第51週は市全体で定点あたり2.46と警報レベル(定点あたり8.00以上)を下回っているものの、増加傾向です。瀬谷区では9.25と警報レベルとなっており、注意が必要です。



- 7 **性感染症**:11月は、性器クラミジア感染症は男性が22件、女性が12件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が9件です。尖圭コンジローマは男性2件、女性が6件でした。淋菌感染症は男性が10件、女性が1件でした。

- 8 **基幹定点週報**:全国ではマイコプラズマ肺炎が定点あたり1.00を超える状況が続いています。横浜市でも第48週1.33、第49週2.67、第50週3.00、第51週2.50と、報告が多い状態が続いています。細菌性髄膜炎が第50週に1件(60歳代、病原体は肺炎球菌)、無菌性髄膜炎が第50週に3件(40歳代2件、10歳代1件。いずれも病原体は検出せず)ありました。クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

- 9 **基幹定点月報**:11月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症6件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

感染症に気をつけよう



1. 全数報告感染症(感染症法1～5類感染症):12月の報告

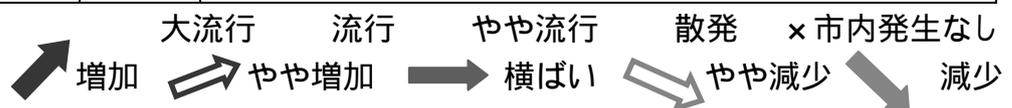
海外での感染が推測されるものとして、デング熱 1 件(インドネシア)およびチクングニア熱 1 件(インド)の報告がありました。海外では衛生事情が日本と異なることも多く、感染症のリスクは高くなります。下記ホームページをご参照ください。

- ・FORTH 海外で健康に過ごすために(厚生労働省検疫所ホームページ) <http://www.forth.go.jp/>
- ・感染症 これだけ知っていれば怖くない!(日本旅行業協会ホームページ) <http://tabitokenko.visitors.jp/>
- ・その他、アメーバ赤痢 2 件、レジオネラ症・バンコマイシン耐性腸球菌感染症および後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)各 1 件の報告がありました。

定点報告感染症(感染症法における5類感染症)

平成 23 年 11 月 21 日～平成 23 年 12 月 18 日

疾患名	市内流行状況	コメント
インフルエンザ	⇒	全国的には流行期に入りましたが、市内ではまだ発生は少数です。しかし、今後の増加が予想されます。
感染性胃腸炎	↗	12 月に入り、患者数は先月よりも大幅に増加しました。市全体の数字としては平年並みですが、いくつかの区では警報レベルの患者数となっています。
水痘 (水ぼうそう)	⇒	11 月半ばから患者数の増加が見られています。市全体では注意報レベル以下の状態ですが、過去 5 年間の患者数比較では、最も多い数値となっています。
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	⇒	12 月以降、徐々に患者数が増加しています。市全体では注意報レベル以下の状態ですが、警報レベルとなっている区もあるため、今後の動向に注意が必要です。



2. 今気をつけたい感染症

感染性胃腸炎: 主に冬に流行する感染症で、原因としてはノロウイルスやロタウイルスがあります。いずれも感染力は非常に強く、10～100 個程度という少数のウイルスでも、口から体内に入れば感染するといわれています。消毒に有効なのは次亜塩素酸ですが、人体には刺激が強く使用できないため、予防には手洗いが重要です。ノロウイルスはヒト-ヒト感染だけでなく、食べ物を介して感染を起こすことも多いので、食べ物を扱う場合は特に手洗いをしっかりとする必要があります。

- ・パンフレット ノロウイルスによる感染性胃腸炎にご注意ください!
- ・パンフレット 正しい手洗い(日本語版)

「感染症に気をつけよう1月号」は、平成 23 年 12 月 22 日の横浜市感染症発生動向調査委員会の内容を市民向けに加工したものです。詳しくは、委員会報告をご覧ください。

市内感染症に関する詳しい情報は、感染症発生状況をご参照ください。

また、衛生研究所では、一般の方用のパンフレットの作成もしていますので、併せてご利用ください。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課(横浜市感染症情報センター)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>



感染症に気をつけよう



1. 全数報告感染症(感染症法1～5類感染症):1月の報告

破傷風の報告が 1 件ありました。けがによる傷口からの感染

が原因と推定されています。成人の場合、破傷風の原因の大部分は傷口からの感染であり、しかもごく小さな傷口からも感染する可能性があります。破傷風の予防接種は小児というイメージがありますが、破傷風菌は土の中に常在するため、特に農作業に従事する方や、ガーデニングを趣味とされる方は成人であっても予防接種をお勧めします。

その他、コレラ・パラチフス・細菌性赤痢・レジオネラ症・アメーバ赤痢各 1 件の報告がありました。このうち、コレラはフィリピン、パラチフスはパキスタンでの感染と推察されています。

定点報告感染症(感染症法における5類感染症)

平成 23 年 12 月 19 日～平成 24 年 1 月 22 日

疾患名	市内流行状況	コメント
インフルエンザ	▲	冬休みが終わった頃から患者数が増え始め、横浜市でも注意報が発令されました。今後さらに患者数は増えていくと予想されています。
感染性胃腸炎	→	ピーク時に比べると患者数はやや減少していますが、まだ流行期を脱していない状態です。
水痘 (水ぼうそう)	↘	昨年 12 月の患者数は、過去 5 年間で最も多い数値でしたが、1 月に入ってからの患者数は減少に転じています。



2. 今気をつけたい感染症

インフルエンザ: 主に冬に流行する感染症で、主な症状は発熱(高熱)、筋肉痛・頭痛などです。代表的な感染経路は飛沫感染、つまりインフルエンザに感染した人の咳やくしゃみを介した感染であるため、人混みを避けることも重要です。インフルエンザにはシーズン前のワクチン接種が重要ですが、100 パーセント感染を防止するものではないので、うがいや手洗いをしっかり行いましょう。

- ・インフルエンザ臨時情報 2011/2012 年シーズン
- ・パンフレット 正しい手洗い(日本語版)

「感染症に気をつけよう 2 月号」は、平成 24 年 1 月 26 日の横浜市感染症発生動向調査委員会の内容を市民向けに加工したものです。詳しくは、委員会報告をご覧ください。

市内感染症に関する詳しい情報は、感染症発生状況をご参照ください。

また、衛生研究所では、一般の方用のパンフレットの作成もしていますので、併せてご利用ください。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課(横浜市感染症情報センター)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>



感染症に気をつけよう



1. 全数報告感染症(感染症法1～5類感染症):2月の報告

先月に引き続き、破傷風の報告が 1 件ありました。凍傷による傷口からの感染が原因と推定されています。

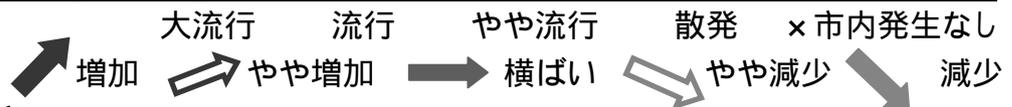
レジオネラ症の報告が 1 件ありました。水系感染が疑われていますが、詳細は調査中です。

その他、後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)および風しんの報告が 1 件ずつありました。

定点報告感染症(感染症法における5類感染症)

平成 24 年 1 月 23 日～平成 24 年 2 月 19 日

疾患名	市内流行状況	コメント
インフルエンザ	→	横浜市では、2 月 2 日に警報が発令されています。現在は、ピーク時に比べて勢いは若干衰えています。過去 5 年間の同時期の比較では、最も多い報告数です。
感染性胃腸炎	↘	先月よりも患者数は減少しており、過去 5 年間の同時期の比較でも患者数は少なめで推移していますが、市内では患者数の多い地域が一部見られています。
水痘 (水ぼうそう)	→	一部地域で流行していると思われる報告が続いていますが、市全体としては落ち着いてきています。



2. 今気をつけたい感染症

インフルエンザ：主に冬に流行する感染症で、代表的な症状は発熱(高熱)、筋肉痛・頭痛などです。予防には手洗い・うがいの他、シーズン前のワクチン投与が有効です。近年では、オセルタミビル(タミフル®)、ザナミビル(リレンザ®)、ラニナミビル(イナビル®)といった、インフルエンザウイルスに有効な薬があるため、重症化することは少なくなっています。しかし、薬ですぐ熱が下がったために治ったと思ってしまう、外出等をして周囲に感染を広げる例も少なからずあるようです。厚生労働省「保育所における感染症対策ガイドライン」(平成 21 年 8 月)では、登園を控える期間の目安として「症状が始まった日から 5 日以内に症状が無くなった場合は、症状が始まった日から 7 日目まで、又は解熱した後 3 日を経過するまで」と記されています。特に低年齢の子供の場合、インフルエンザウイルスを排出する期間は長くなる傾向がありますので、周囲に感染を広げないためにも、医師に指示された休養期間を守るようにしましょう。

- ・厚生労働省「保育所における感染症対策ガイドライン」 <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/hoiku02.pdf>
- ・インフルエンザ臨時情報 2011/2012 年シーズン
- ・パンフレット 正しい手洗い(日本語版)

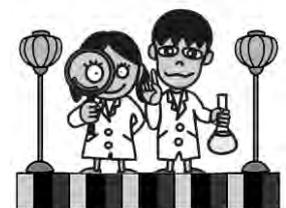
「感染症に気をつけよう 3 月号」は、平成 24 年 2 月 23 日の横浜市感染症発生動向調査委員会の内容を市民向けに加工したものです。詳しくは、委員会報告をご覧ください。

市内感染症に関する詳しい情報は、感染症発生状況をご参照ください。

また、衛生研究所では、一般の方用のパンフレットの作成もしていますので、併せてご利用ください。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課(横浜市感染症情報センター)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>



感染症に気をつけよう



1. 全数報告感染症(感染症法1～5類感染症):3月の報告

腸管出血性大腸菌感染症の報告が3件ありました。いずれも詳細については調査中です。

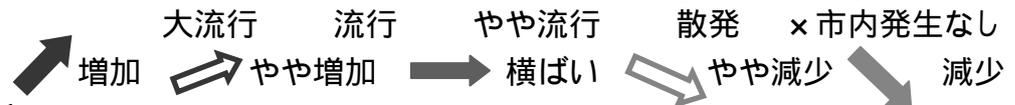
マラリアの報告が2件ありました。2件とも、海外(アフリカ大陸内)での感染と推測されています。

その他、風しんの報告が2件、A型肝炎・アメーバ赤痢・後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)およびバンコマイシン耐性腸球菌感染症の報告が1件ずつありました。

定点報告感染症(感染症法における5類感染症)

平成 24 年 2 月 20 日～平成 24 年 3 月 25 日

疾患名	市内流行状況	コメント
インフルエンザ	↘	1月末～2月初めに流行のピークを迎えて以降、患者数は減少しています。なお現在、市内で報告されるインフルエンザの約9割がB型です。
感染性胃腸炎	⇨	市内全体としては落ち着いてきていますが、一部地域では流行が継続しています。
伝染性紅斑 (りんご病)	→	一部地域で流行の兆しが見られています。市内では例年、春から夏にかけて流行する感染症ですので、今後の動きに注意が必要です。



2. 今気をつけたい感染症

マイコプラズマ肺炎: 小児など、若い世代に見られる肺炎です。まず発熱や頭痛を伴う気分不快感が数日続き、その間に咳がひどくなってきます。症状はかなり長引き、特に頑固な咳が続く特徴があります。一般的には予後良好ですが、重症化することもあり注意が必要です。主に秋に流行する感染症ですが、日本では昨年秋以降、全国的に流行が続いています。ワクチンが存在しないため、予防には手洗い・うがい重要です。咳が長引くなどの症状が見られる場合は、早めにかかりつけの医師に相談しましょう。

「感染症に気をつけよう4月号」は、平成24年3月29日の横浜市感染症発生動向調査委員会の内容を市民向けに加工したものです。詳しくは、委員会報告をご覧ください。

市内感染症に関する詳しい情報は、感染症発生状況をご参照ください。

また、衛生研究所では、一般の方用のパンフレットの作成もしていますので、併せてご利用ください。

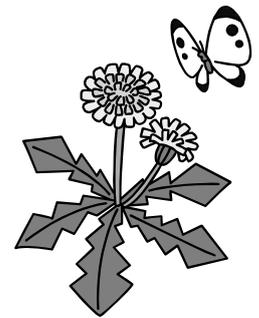
横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課(横浜市感染症情報センター)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>





感染症に気をつけよう



1. 全数報告感染症(感染症法1～5類感染症):4月の報告

腸管出血性大腸菌感染症の報告が2件ありました。いずれも詳細については調査中です。

A型肝炎の報告が2件ありました。2件とも、飲食物からの感染と推測されています。貝類を中心に、十分な加熱がされていない食物には注意しましょう。

その他、アメーバ赤痢の報告が2件、腸チフス、E型肝炎、マラリア、後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)、およびジアルジア症の報告が1件ずつありました。

4月は、海外での感染が推定される例が5例報告されました。海外では、国や地域ごとに流行している感染症が異なります。海外渡航の前には、あらかじめ検疫所ホームページで、感染症流行状況を確認しましょう。厚生労働省検疫所：海外で健康にお過ごしいただくための情報サイト <http://www.forth.go.jp/>

定点報告感染症(感染症法における5類感染症)

平成 24 年 3 月 19 日～平成 24 年 4 月 22 日

疾患名	市内流行状況	コメント
感染性胃腸炎	▲ →	市内全体としては落ち着いていますが、一部地域では流行が継続しています。今年の発生数は、過去5年間でも一番高い水準です。手洗いや、食品の加熱に十分注意しましょう。



2. 今気をつけたい感染症

E型肝炎：E型肝炎ウイルスに汚染された水や食物を摂取することで感染する肝炎で、症状は全身倦怠感、食欲不振、発熱、黄疸などです。妊婦が感染すると重症化することがあり、特に注意が必要です。海外の流行国を旅行した際に飲み水などが原因で感染するケースと、国内で獣肉や生肉を食べるケースが多く報告されています。海外では、中国・インド・ネパール・パキスタンなどのアジアの国々、メキシコ、中東・アフリカの国々で流行しているので、感染予防のためには生水の摂取等に注意が必要です。国内では、獣肉、生肉や内臓を食べる際に十分加熱することが大切です。

「感染症に気をつけよう5月号」は、平成24年4月26日の横浜市感染症発生動向調査委員会の内容を市民向けに加工したものです。詳しくは、委員会報告をご覧ください。

市内感染症に関する詳しい情報は、感染症発生状況をご参照ください。

また、衛生研究所では、一般の方用のパンフレットの作成もしていますので、併せてご利用ください。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課(横浜市感染症情報センター)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>





感染症に気をつけよう



1 全数報告感染症(感染症法 1~5 類感染症) 5月の報告

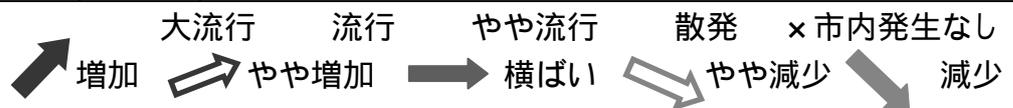
腸管出血性大腸菌感染症の報告が3件ありました。例年夏に流行するので注意が必要です。生肉を切った包丁やまな板の洗浄・消毒、焼肉の生肉を取るはしと食べるはしの区別などの予防対策が重要です。また、加熱が不十分な肉を食べないことが大切です。家族内の感染者からうつることがあるため、十分な手洗いも心がけましょう。 啓発用チラシ「O157」に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

その他、アメーバ赤痢の報告が3件、A型肝炎、レジオネラ症の報告が2件、コレラ、急性脳炎、クロイツフェルト・ヤコブ病、後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)の報告が1件ずつありました。

2 定点報告感染症(感染症法 5類感染症) 平成 24 年 4 月 23 日 ~ 5 月 27 日

疾患名	市内流行状況	コメント
咽頭結膜熱 (プール熱)	⇒	まだ落ち着いていますが、例年夏に流行するので、今後の注意が必要です。乳幼児や高齢者で症状が重くなることがあります。予防にはうがい・手洗いが大事です。また、プールでの感染防止のために、前後でシャワーをよく浴びましょう。
感染性胃腸炎	→	例年に比べて報告数が多い状態が続いています。集団発生の報告もあり、引き続き注意が必要です。



3 今、気をつけたい感染症

風しん：現在、兵庫県や大阪府などで流行しており、厚生労働省が注意を呼びかけています。横浜市では今のところ明らかな流行はありませんが、今後の流行情報に注意が必要です。風しんは風しんウイルスによっておこり、主な症状は発疹、発熱、リンパ節のはれです。小児の場合、通常あまり重くない病気ですが、妊婦、特に妊娠初期の女性が風しんにかかると胎児に感染し、難聴、心疾患、白内障、精神運動発達遅滞などをもった、先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれる可能性があります。

風しんの治療法は特別なものが無く、対症療法が中心なので、予防のためにはワクチンをしっかり受けることが重要です。ただ、妊娠中の女性あるいは、2ヶ月以内に妊娠する女性は、ワクチンが先天性風しん症候群を起こす可能性が指摘されているので、風しんの予防接種を受けてはいけません。

「感染症に気をつけよう6月号」は、平成24年5月31日の横浜市感染症発生動向調査委員会の内容を市民向けに加工したものです。詳しくは、委員会報告をご覧ください。

市内の感染症に関する詳しい情報は、感染症発生状況をご参照ください。

また、衛生研究所では、一般の方用のパンフレットも作成していますので、併せてご利用ください。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課(横浜市感染症情報センター)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>



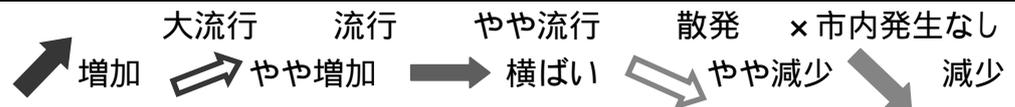
感染症に気をつけよう！



- 1 全数報告感染症(感染症法 1~5 類感染症) 6月の報告
腸管出血性大腸菌感染症の報告が 21 件ありました。このうち 14 件が同一の焼肉店での食中毒です。その他、アメーバ赤痢の報告が 5 件、レジオネラ症の報告が 4 件、梅毒、風しんの報告が 2 件ずつありました。

2 定点報告感染症(感染症法 5 類感染症) 平成 24 年 5 月 28 日~6 月 24 日

疾患名	市内流行状況	コメント
咽頭結膜熱 (プール熱)	▲	報告数が増加しています。乳幼児や高齢者で症状が重くなることがあります。引き続き注意が必要です。
感染性胃腸炎	→	例年に比べて報告数がやや多い状態が続いています。集団発生の報告もあり、今後も注意が必要です。
A 群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	→	区によっては報告が多い状態が続いています。例年 5 月から 8 月にかけて報告数が増加するので、まだ注意が必要です。



3 今、気をつけたい感染症

腸管出血性大腸菌感染症 O157 などの腸管出血性大腸菌に汚染された食物を食べることが原因と考えられています。焼肉による感染が有名です。感染力が強く、およそ 3~5 日の潜伏期において腹痛と下痢が何回も起きて発病し、さらに、血便が出ることがあります。特に、乳幼児や高齢者では重症化することが多く、注意が必要です。

昨年 4 月の焼肉チェーン店での集団食中毒を受け、厚生労働省は生食用牛肉の提供基準を厳しくし、また、生レバーの提供は禁止しています。

O157 は、牛などの腸内に存在し、新鮮な肉も汚染されていることがあります。

焼肉を食べる時には、生肉を取るはしと食べるはしを区別しましょう。

加熱(75 で 1 分以上)すれば O157 は死にます。

肉は中心部までしっかり火を通しましょう。

感染した家族からうつることもあります。

人から人への感染を防ぐために、手をよく洗うことも大切です。

啓発用チラシ「O157 に注意しましょう！」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>



この資料は、平成 24 年 6 月 28 日の横浜市感染症発生動向調査委員会の内容を市民向けに加工したものです。詳しくは、委員会報告をご覧ください。市内の感染症に関する詳しい情報は、感染症発生状況をご参照ください。啓発用にパンフレットも作成していますので、併せてご利用ください。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 (横浜市感染症情報センター)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>





感染症に気をつけよう！



1 全数報告感染症(感染症法 1~5 類感染症) 7月の報告件数 風しん 11 件、腸管出血性大腸菌感染症 7 件、麻しん(はしか)5 件でした。その他、レジオネラ症、後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)が 2 件ずつ、デング熱、マラリア、アメーバ赤痢、バンコマイシン耐性腸球菌感染症が 1 件ずつでした。夏休みの旅行では、海外で流行している感染症にも気をつけましょう。厚生労働省 検疫所ホームページ「FORTH」をご覧ください。

2 定点報告感染症(感染症法 5 類感染症) 平成 24 年 6 月 25 日~7 月 22 日

疾患名	市内流行状況	コメント
ヘルパンギーナ	▲	6 月下旬から報告が増え、市全体でも警報レベルに近づいています。これから秋にかけて流行するので注意が必要です。
手足口病	⇨	市全体でやや増加しており、2つの区では警報レベルになっています。例年夏に増加するので、注意が必要です。
マイコプラズマ肺炎	→	全国的に流行しています。市内でも昨年の報告をやや上回る状況が続いており、引き続き注意が必要です。

大流行 流行 やや流行 散発 ▲ 増加 ⇨ やや増加 → 横ばい

3 今、気をつけたい感染症

風しん 風しんウイルスによっておこり、主な症状は発疹・発熱・リンパ節のはれです。小児では通常あまり重症にはなりません。妊婦(特に妊娠初期)の女性が感染すると、白内障・心疾患・難聴などをもった、先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれる可能性があります。

6 月号で関西での流行をお伝えしましたが、現在、関東でも流行が始まっており、横浜市内の報告数は、すでに昨年 1 年間の約 1.5 倍に達しています。流行の中心は、風しんの定期予防接種が開始された当時、接種対象ではなかった 30~40 代を中心とした成人男性です。詳しくは横浜市感染症臨時情報をご覧ください。

流行をおさえ先天性風しん症候群を防ぐために、成人も予防接種を受けましょう。特に、女性だけでなく、男性も接種することが大事です。ただし、妊婦は風しんの予防接種を受けられません。また、接種後 2ヶ月間は避妊が必要になります。

次の方は定期予防接種として、麻しん・風しん混合(MR)ワクチンを無料で接種できます。

第 1 期 1 歳以上 2 歳未満

第 2 期 5 歳から 7 歳未満で小学校入学前の 1 年間

第 3 期および第 4 期 中学 1 年生相当と高校 3 年生相当

(接種を 1 回しか受けていない方で、平成 25 年 3 月までに限ります。)



この資料は、7 月開催の横浜市感染症発生動向調査委員会の市民向け報告です。詳しくは委員会報告をご覧ください。市内の感染症に関する詳しい情報は、感染症発生状況をご参照ください。啓発用にパンフレットも作成しています。

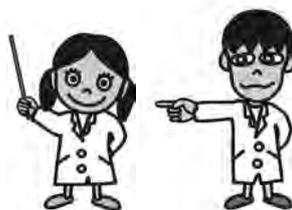
横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 (横浜市感染症情報センター)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>



感染症に気をつけよう！

平成 24 年 9 月 3 日



横浜市内の感染症流行状況

疾患名	流行状況	コメント
風しん	→	6月下旬から報告が増え、すでに昨年1年間の約4倍になっています。特に成人男性を中心に流行しています。流行をおさえ先天性風しん症候群を防ぐために、成人も予防接種を受けましょう。男性も接種することが大切です。詳しくは感染症臨時情報をご覧ください。
マイコプラズマ肺炎	→	全国的に流行しています。市内でもやや報告が多い状況が続いており、引き続き注意が必要です。
ヘルパンギーナ	↘	7月下旬に報告のピークがみられてからは、減少が続いています。今季の流行は、ほぼ終わったようです。

流行 やや流行 散発 やや増加 横ばい 減少

今、気をつけたい感染症

麻しん(はしか) 風しんと同時に免疫をつけましょう！

現在、風しんが流行していますが、同じく発しん・発熱を示す感染症に麻しんがあります。一般的に風しんより重症で、感染力がとても強く、免疫のない人が感染するとほぼ100%発症します。約10～12日の潜伏期の後、熱やせき、鼻水などの症状が出ます。数日すると、38以上の高熱と、全身に発しんが現れます。ほほの内側に白い斑点(コプリック斑)が出ることもあります。肺炎や脳炎などの重い合併症を起こして、命に関わることもあります。

特別な治療法はありませんが、流行している風しんと同時に、予防接種で防ぐことが可能です。次の方は定期予防接種として、麻しん・風しん混合(MR)ワクチンを無料で接種できます。このワクチンは麻しんと風しん両方に効果があります。



第1期 1歳以上2歳未満

第2期 5歳から7歳未満で小学校入学前の1年間

第3期および第4期 中学1年生相当と高校3年生相当

(国が定めた「麻しん排除計画」に基づき、平成25年3月までに限ります。)

これら以外の方で、麻しん、風しんの予防接種を一度も受けていない方や接種歴が不明な方は、自費での接種が可能です。

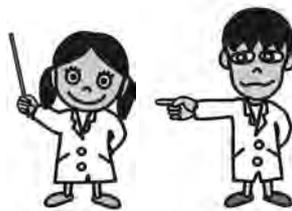
この資料は、8月開催の横浜市感染症発生動向調査委員会の市民向け報告です。詳しくは委員会報告をご覧ください。市内の感染症に関する詳しい情報は、感染症発生状況をご参照ください。啓発用にパンフレットも作成しています。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 (横浜市感染症情報センター)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>



感染症に気をつけよう！



平成 24 年 10 月 2 日

横浜市内の感染症流行状況

疾患名	流行状況	コメント
RS ウイルス 感染症	▲	今年は、通常より早い 8 月下旬から報告が増え続けており、例年を大きく上回っています。今後の流行に注意が必要です。下段の「今、気をつけたい感染症」で解説しています。
腸管出血性 大腸菌感染症	⇨	7 月以降、報告が増加しています。家族内での発症もみられました。「O157 に注意しましょう」を読んで防ぎましょう。
風しん	➡	9 月に入っても成人男性を中心に流行しています。流行をおさえ先天性風しん症候群を防ぐために、成人も予防接種を受けましょう。男性も接種することが大事です。詳しくは感染症臨時情報をご覧ください。
マイコプラズマ 肺炎	➡	全国的に流行しています。市内でもやや報告が多い状況が続いており、引き続き注意が必要です。

流行 やや流行 散発 増加 ▲ やや増加 ⇨ 横ばい ➡ 減少 ▼

今、気をつけたい感染症

RS ウイルス感染症

昔から、いわゆる冬場の風邪のひとつとして知られていますが、乳幼児では重症化することが多く、乳幼児における肺炎の約 50%、細気管支炎の 50～90%の原因を RS ウイルス感染症が占めると報告されており、注意が必要です。病気がある子供や高齢者では、さらに重い症状を引き起こすことが多く、重要な感染症です。



例年、冬期を中心に流行しますが、今年は横浜市内だけではなく、全国的にもすでに流行が始まっており、早めの対策が必要です。

他の多くの風邪と同様に、患者の咳で生じた飛沫(しぶき)を吸い込んだり、患者の呼吸器からの分泌物に汚染された手指や物品を介した接触で感染します。そのため、自分が感染しないためにも、他人を感染させないためにも、手洗いやうがい重要です。「正しい手洗い」を参考にしてください。



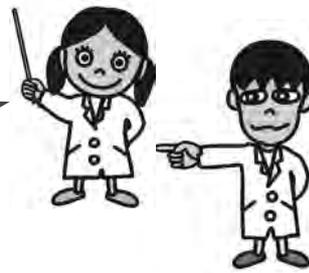
この資料は、9 月開催の横浜市感染症発生動向調査委員会の市民向け報告です。詳しくは委員会報告をご覧ください。市内の感染症に関する詳しい情報は、感染症発生状況をご参照ください。啓発用にパンフレットも作成しています。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課（横浜市感染症情報センター）

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>



感染症に気をつけよう！



平成 24 年
11 月号

横浜市内の感染症流行状況

疾患名	流行状況	コメント
風しん	→	全国的な流行はおさまってきましたが、関東や関西では流行が続いています。横浜でも 10 月に入ってからも成人男性を中心に流行しています。流行をおさえ先天性風しん症候群を防ぐために、成人も予防接種を受けましょう。男性も接種することが大切です。詳しくは感染症臨時情報をご覧ください。
マイコプラズマ肺炎	→	全国的に流行しており、市内でも報告が多い状況が続いています。下段の「今、気をつけたい感染症」で解説しています。
RS ウイルス感染症	↘	今年は、通常より早い時期から報告が増え続け、例年を大きく上回っていました。10 月中旬以降はやや減少傾向ですが、全国的には流行が継続しており、引き続き注意が必要です。

流行 やや流行 散発 ↗ 増加 ↘ やや増加 → 横ばい ↘ 減少

今、気をつけたい感染症

マイコプラズマ肺炎

「肺炎マイコプラズマ」という細菌の一種によって起こります。子供や若い人の肺炎として、比較的多くみられる感染症です。家庭のほか、学校などの施設内での流行が問題になることもあります。

症状は、発熱や全身のだるさ、頭痛、痰を伴わない咳などで始まります。咳は熱が下がった後も、長く(3~4 週間)続くのが特徴です。症状にはかなり個人差があり、重症化すれば入院が必要になります。

以前は 4 年周期で大流行していましたが、最近は大きな流行がみられなくなった一方で、患者数が増加傾向にあります。今年も全国的に例年を上回る状態が続いています。

風邪やインフルエンザと同様に、患者の鼻やのどからの分泌物を介して感染するので、予防には普段からの手洗いが大切です。また、患者となって咳の症状がある時には、他の人にうつさないように、マスクを着けるなど咳エチケットを守りましょう。

長引く咳などの症状がある場合は、医療機関を受診しましょう。



この資料は、10 月開催の横浜市感染症発生動向調査委員会の市民向け報告です。詳しくは委員会報告をご覧ください。

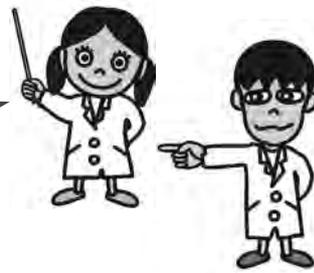
市内の感染症流行に関する詳細は、感染症発生状況をご参照ください。啓発用パンフレットも作成していますので、ご利用ください。



横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 (横浜市感染症情報センター)

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

感染症に気をつけよう！



平成 24 年
12 月号

横浜市内の感染症流行状況

疾患名	流行状況	コメント
感染性胃腸炎	▲	10 月中旬から全国的に流行しており、市内でも報告数が急増しています。特に乳幼児に多く発生しており、年末にかけてさらに流行が予想されるため注意が必要です。下段の「今、気をつけたい感染症」で解説しています。
風しん	→	全国的な流行はおさまってきましたが、関東や関西では流行が続いています。市内でも 11 月に入ってから成人男性を中心に流行しています。流行をおさえ先天性風しん症候群を防ぐために、成人も予防接種を受けましょう。男性も接種することが大事です。詳しくは感染症臨時情報をご覧ください。
マイコプラズマ肺炎	→	全国的に流行しており、市内でも報告が多い状況が続いています。長引く咳などがある場合は、医療機関を受診しましょう。

流行 やや流行 散発 ▲ 増加 ↗ やや増加 → 横ばい ↘ 減少

今、気をつけたい感染症 = 感染性胃腸炎



ノロウイルスなどの感染が原因で、主症状は下痢・腹痛・吐き気・嘔吐等です。例年、冬に発生が増加し、保育園などでの集団発生も多いです。通常 2～3 日で回復しますが、乳幼児や高齢者では重篤な症状になることがあります。

ウイルスを含んだ便や嘔吐物から口を介して感染が広まるため、予防には手洗いや、汚物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。消毒には次亜塩素酸が有効です。

患者さんの便や嘔吐物を処理する時は、使い捨て手袋・マスク・エプロンを着用し、処理後は石けんと流水で十分に手を洗います。嘔吐物の処理の際、ウイルスが空气中に浮遊する危険があるので、十分に換気しましょう。

食品の加熱には、中心温度 85℃、1 分以上が必要です。次亜塩素酸が使えない物品の場合にも、よく下洗いした後に、熱湯やスチームアイロンなどの蒸気を用いて、この温度と時間の条件で加熱すれば消毒が可能です。

ノロウイルスに感染すると、症状が改善してからも、1 週間、長いと 1 か月程度はウイルスの排出が続くことがあるため、手洗い等の感染防止策が必要になります。

厚生労働省 ノロウイルスに関する Q & A



この資料は、11 月開催の横浜市感染症発生動向調査委員会の市民向け報告です。詳しくは委員会報告をご覧ください。市内の感染症流行に関する詳細は、感染症発生状況をご参照ください。啓発用パンフレットも作成していますので、ご利用ください。



横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課（横浜市感染症情報センター）
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

横浜市感染症発生動向調査事業概要
平成 24 年(2012 年)

横浜市健康福祉局 衛生研究所 感染症・疫学情報課
平成 26 年 1 月発行

〒235-0012 横浜市磯子区滝頭 1-2-17

Tel 045(754)9815

Fax 045(754)2210

紙へリサイクル可